



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立夜須高原青少年自然の家

活動資料集



【令和7年4月改定版】

目次

登山・ハイキング・フィールド活動	．．．．．	P 2～
ゲーム・レクリエーション活動	．．．．．	P 16～
水辺活動	．．．．．	P 28～
野外調理	．．．．．	P 33～
クラフト（創作）活動	．．．．．	P 41～
学習活動等	．．．．．	P 56～
各種スポーツ活動	．．．．．	P 62～

『登山・ハイキング・フィールド活動』

○大根地山（おおねちやま）登山、砥上岳（とがみだけ）登山	．．．．．	P 3
○秋月（あきづき）城下町ハイキング	．．．．．	P 4
○夜須高原記念の森ハイキング	．．．．．	P 5
○オリエンテーリング	．．．．．	P 6
○ウォークラリー	．．．．．	P 7
○フィールドビンゴ	．．．．．	P 8
○夜須アドベンチャーウォーク	．．．．．	P 9
○五玉（いつたま）神社の謎を解け！	．．．．．	P 1 0
○ひるもりビンゴ	．．．．．	P 1 1
○館内ウォークラリー・館内ビンゴ・館内フォトラリー	．．．．．	P 1 2
○ナイトハイキング・きもだめし	．．．．．	P 1 3
○テント泊	．．．．．	P 1 4
○里地里山ウォークラリー	．．．．．	P 1 5

※活動に関する地図等の資料は、当施設 HP よりダウンロードできますので、ご活用ください。

HP「活動・事業の紹介」：<https://yasu.niye.go.jp/activity/>



○大根地山・砥上岳登山

活動の概要		大根地山山頂（標高652m）・砥上岳山頂（標高496m）を目指す。片道約7kmの山道を歩くことで、自然に親しみ、体力や忍耐力を培う。 また、協力することや仲間の大切さを感じることができる。
めあての例		・登山することで、協力することや仲間の大切さを感じよう。 ・山を歩くことで、体力や忍耐力を高めよう。
時期		通年
所要時間		6時間程度（片道2時間半＋昼食・休憩等）
人数		大根地山山頂は300名まで、砥上岳山頂は50名まで
手順		<事前準備> ・事前に下見を行い、休憩場所や危険箇所を確認する。 ・以下にトイレ使用の件を事前に連絡する。 ～大根地山登山～ ※大根地神社 ※夜須高原カントリークラブ ～砥上岳登山～ ※夜須高原カントリークラブ <活動前> ・気象状況に関する情報を確認する。 ・無線機・サンダーメーターを事務室に取りに来て「登山カード」に記入する。 <活動中> ・留意点を確認して出発する。 ・大きな道路(国道200号)を横断する際は、十分注意する。 ・参加者の様子を見ながら休憩をとり、水分補給をする。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。
引率者の配置・人数		・自然の家（本部）、先頭、中盤、後方・・・各1名程度 ・緊急車両・・・1名
留意点		・熱中症対策を行う。 ・定期的に点呼をする。 ・出発前にトイレを済ませる。 ・危険な動植物（スズメバチ、ハゼ等）への注意を促す。 ・雷が鳴ったら、活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	コース案内図、無線機、サンダーメーター
	団体準備	救急セット
	個人準備	長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、帽子、水筒、タオル、弁当（必要に応じて）、筆記用具、レインコート
ふりかえりのポイント		・自然の中を歩いてどんなことを体感したか。 ・困難を克服できた達成感があったか。

○秋月城下町ハイキング

活動の概要		自然の家から出発して、秋月までの道のりを歩き、歴史や自然に親しむことができる活動である。 ほぼ舗装された道であるため、車も伴走できる。片道3時間程度であるが、秋月城下町の散策も入れて、終日の活動にした方がより楽しめる。
めあての例		○秋月まで歩きながら、自然や歴史とふれあおう。 ○仲間で声を掛け合いながら、ゴールまで歩こう。
時期		通年
所要時間		6時間程度
人数		300名程度（目的地により異なる）
手 順		<事前準備> ・事前にコース及び秋月の下見をする。 ・危険箇所の有無やトイレ、休憩の場所等を確認する。 <活動前> ・無線機とコース地図を自然の家事務室で受け取る。 ・気象状況に関する情報を確認する。 <活動中> ・車の通りに気をつけて歩く。 ※歩道がない道路が多く、自動車の往来が比較的多いため ・参加者の様子を見ながら休憩をとり、水分補給をする。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。
引率者の配置・人数		・自然の家（本部）、先頭、中盤、後方・・・各1名 ・緊急車両・・・1名
留意点		・熱中症対策を行う。 ・冬季は路面凍結の恐れがある。 ・トイレを済ませる（途中トイレはほとんどない）。 ・危険な動植物（スズメバチ、ハゼ等）への注意を促す。 ・雷が鳴ったら、活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・道幅が狭く車の往来が比較的多いため、お互いに声を掛け合い、安全に気を配ることを忘れないようにする。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	コース案内図、無線機、サンダーメーター
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、帽子、水筒、タオル、弁当（必要に応じて）、レインコート、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）
ふりかえりのポイント		・ハイキング中にどんなものを発見したか。 ・自然の中を歩いて、感じたことを共有してみる。 ・仲間からのどんな声をかけられるとうれしかったか聞いてみる。

○夜須高原記念の森ハイキング

活動の概要		自然の家から出発して、記念の森までの道のりを歩き、自然に親しむことができる。記念の森に着き、ヤスゴン等の遊具で遊んだりお弁当を食べたり、終日の活動にした方がより楽しめる。
めあての例		・記念の森まで歩きながら、自然とふれあおう。
時期		通年
所要時間		片道30分程度（約2キロ）
人数		制限なし ※グループ活動で実施する場合は、マップの貸出最大5セット
手順		<事前準備> ・コースの下見及び記念の森の下見を行う。 ※月曜日休園日 ・事前にグループ（4～6人程度）を作る。 ・引率者から留意点の説明を行う。 <活動前> ・記念の森へのマップを借りる。 ・グループ別活動の場合は、自然の家職員から説明を受ける。 ・引率者は各分担場所へ移動する。 <活動中> ・グループ活動の場合は、5分間隔でスタートする。 ・記念の森到着後、活動範囲を指定する。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、活動後のふりかえりを設定する。
引率者の配置・人数		・先頭、中盤、後方・・・各1名 （チェックポイント数カ所：グループ活動の場合）
留意点		・熱中症対策を行う ・出発前にトイレを済ませる。 ・道に迷ったときは、必ず分かるポイントまで戻るよう注意する。 ・グループで行動し、単独行動はしない。 ・危険な動植物（スズメバチ、ハゼ等）への注意を促す。 ・雷が鳴ったら、活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・安全のためにゼッケンを着用する（グループ活動の場合）。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	記念の森へのマップ、無線機、ゼッケン
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、帽子、水筒、タオル、レインコート、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、弁当（必要に応じて）
ふりかえりのポイント		・ハイキング中にどんなものを発見したか。 ・自然の中を歩いて、感じたことを共有してみる。 ・協力してゴールに到着したか。

○オリエンテーリング（ポイント 0L、スコア 0L）

活動の概要		地図上に記されたポイントを、コンパスを使って探しながら通過していく。決められたコースでのタイムを競う（ポイント0L）、多くのポイントを回ってその合計得点を競う（スコア0L）がある。 ウォークラリー、フィールドビンゴのようにコースが決められていないため、グループでの協力がより求められ、難易度は上がる。
めあての例		・コンパスの使い方を確認し、協力してポストを目指そう ・夜須高原の森を歩きながら、自然に親しむ。
時期		通年
所要時間		3～4時間（団体で時間設定可）
人数		制限なし
手順		<事前準備> ・コースの下見を行う。 （広範囲での活動の場合は、三箇山公民館トイレの場所を確認） ・事前にグループ（4～6人程度）を作る。 <活動前> ・事務室で無線機、0Lカード、マップ、コンパス等を受け取る。 ・引率者は各分担場所へ移動する。 <活動中> ・自然の家職員から0L用コンパスの使い方及び活動説明 ・2～3分程度の間隔でスタートする。なお、スコア0Lの時は一斉スタートで行う。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。 ・ゴール後、集計・採点をする。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール係（本部）1名 ・チェックポイントなどに各1名
留意点		・熱中症対策を行う ・出発前に、トイレを済ませる（グループが選択するコースによっては途中にトイレがない場合も考えられる）。 ・道に迷ったときは、必ず分かるポイントまで戻るよう注意する。 ・グループで行動し、単独行動しない。 ・危険な動植物（スズメバチ、ハゼ等）への注意を促す。 ・雷が鳴ったら、活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・安全のためにゼッケンを着用する。 ・地図のコース通りには歩けない箇所があるので注意する。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	無線機、コンパス、ゼッケン、0Lマップ、バインダー
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、帽子、水筒、タオル、レインコート
ふりかえりのポイント		・コンパスを正確に使うことができたか。 ・ポイントを見つけたり、ゴールまでたどり着いたりするために工夫したことはどんなことか。 ・夜須高原の自然を体験できたか。

○ウォークラリー

活動の概要		自然の家をスタートし、「コマ地図」を頼りにグループの仲間とルートを相談しながらゴールを目指し、コース途中にあるチェックポイントの問題に答え、正解数や時間を競う。 チェックポイントの問題では、自然と親しんだり自然を学んだりすることができる。 4 km、2 km、1 kmの順・逆回り合わせて計6コースから選択できる。
めあての例		・コマ地図を見て、間違わずにゴールを目指そう。 ・夜須高原の森を歩きながら、自然に親しもう。
時期		通年
所要時間		・1～4時間程度（コースの距離・グループ数で異なる） ・Aコース…3～4時間程度（約5 km）、（Bコース…1～2時間程度（約2 km）、（Cコース…1時間程度（約1 km）
人数		200人（30グループ）程度
手順		<事前準備> ・コースの下見を行う。 ・事前にグループ（4～6人程度）を作る。 <活動前> ・事務室で無線機、コマ地図等を受け取る。 ・引率者は各分担場所等へ移動する。 ・自然の家職員から説明を受ける。 <活動中> ・2～3分程度おきにスタートする。 ・引率者は、途中の各分担場所でグループの通過確認等をする。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。 ・ゴール後、集計・採点をする。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール係（本部）1名 ・チェックポイントなどに各1名
留意点		・熱中症対策を行う。 ・出発前に、トイレを済ませる。 ・道に迷ったときは、必ず分かるポイントまで戻るよう注意する。 ・グループで行動し、単独行動しない。 ・危険な動植物（スズメバチ、ハゼ等）への注意を促す。 ・雷が鳴ったら、活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・安全のためにゼッケンを着用する。 ・コース上にいのしし防止柵や罟の設置箇所があるため注意する。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	無線機、ウォークラリーコマ地図、ゼッケン、バインダー
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、帽子、水筒、タオル、レインコート
ふりかえりのポイント		・コマ地図を間違わずに見て、進むことができたか。 ・グループで、ゴールに着くために工夫したことはどんなことか。 ・夜須高原の自然を体験できたか。

○フィールドビンゴ

活動の概要		地図と解答用紙を持ちながら、森の中を歩き、各ポイントの写真を探したり、チェックポイントの問題を解いたりしながらグループで協力して行う活動である。 ビンゴ25については、「夜須高原記念の森」公園があり、トイレ休憩や昼食の場所として活用ができる。
めあての例		・みんなで協力し、安全に楽しく活動しよう。 ・夜須高原の森を歩きながら、自然に親しもう。
時期		通年
所要時間		・ビンゴ25…3～4時間程度（1周約4.7キロ） ・ビンゴ16…1～2時間程度（1周約2キロ） ・ビンゴ9…1時間程度（1周約1キロ）
人数		200人（30グループ）程度（逆回りコースも利用できる）
手順		<事前準備> ・コースの下見を行う。 ・事前にグループ（4～6人程度）を作る。 ・事務室で無線機、フィールドマップ・解答用紙等を受け取る。 <活動前> ・自然の家職員から説明を受ける。 ・引率者は各分担場所へ移動する。 <活動中> ・2～3分程度おきにスタートする。 ・引率者は、途中の各分担場所でグループの通過確認等をする。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。 ・ゴール後、集計・採点をする。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール地点1名 ・チェックポイントなどに各1名
留意点		・熱中症対策を行う。 ・出発前に、トイレを済ませる。 ・道に迷ったときは、必ず分かるポイントまで戻るよう注意する。 ・グループで行動し、単独行動しない。 ・危険な動植物（スズメバチ、ハゼ等）への注意を促す。 ・雷が鳴ったら活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・安全のためにゼッケンを着用する。 ・コース上にいのしし防止柵や罟の設置箇所があるため注意する。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	フィールドマップ、フィールドビンゴ写真表、解答用紙、無線機、ゼッケン、バインダー
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、帽子、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、水筒、タオル、レインコート
ふりかえりのポイント		・夜須高原の自然を五感で感じるができたか。 ・フィールドマップを見てコースを迷わず進むことができた。 ・安全に注意しながら活動ができたか。

○夜須アドベンチャーウォーク

活動の概要		マップを見ながら、森の中のコースを進み、コースの途中にある１２の課題をグループの仲間と協力しながら解決していく活動である。１２の課題は全て仲間と協力しなければ解決できないものであるため、仲間づくりの活動として最適です。コースの途中に「夜須高原記念の森」公園があり、トイレ休憩や昼食の場所として活用できる。 中学校１学年特別活動（学級活動）（２）－アの教科等の内容と関連づけて実施が可能である。詳細は当施設ホームページに記載。
めあての例		・グループで協力し、自分のよさや仲間のよさをみつけよう。
時期		通年
所要時間		３～４時間程度（約４．７km）
人数		２００人（３０グループ）程度（逆回りコースも利用できる）
手順		<事前準備> ・コースの下見を行う。 ・グループ（５～６人程度）を作る。 ・事務室で無線機、コースマップ・解答用紙を受け取る。 <活動前> ・自然の家職員から説明を受ける→引率者は各分担当場所に移動する。 <活動中> ・２～３分程度おきにスタートする。 ・引率者は、途中の各分担当場所でグループの通過確認等を行う。 <活動後> ・参加者の人数や体調などを確認する。 ・ゴール後、答え合わせを行い、結果発表及び振り返りを行う。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール地点１名 ・コースの分岐点や課題の場所などに数名
留意点		・熱中症対策を行う。 ・出発前にトイレを済ませる。 ・道迷い時は、必ず分かるポイントまで戻るように注意する。 ・グループで行動し、単独行動しない。 ・危険な動植物（ハチ、ヘビ、ハゼ等）の注意を促す。 ・雷が鳴ったら活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・安全のため、ゼッケンを着用する。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	コースマップ・解答用紙・無線機・ゼッケン・バインダー
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、帽子、軍手、水筒、タオル（目隠しとしても使用）、レインコート
ふりかえりのポイント		・グループで協力して活動することができたか。 ・自分のよさや仲間のよさを見つけたことができたか。 ・夜須高原の自然を五感で感じる事ができたか。 ・安全に注意しながら活動ができたか。

○五玉（いつたま）神社の謎を解け！

活動の概要		夜須高原青少年自然の家に隣接する五玉神社に伝わる伝説をもとにした活動である。 地図を頼りにその伝説の謎を解く。謎を解くためのヒントがフィールドに散らばっており、それを見つけ出し、ヒントを得て解答する。 自然に親しみながら夜須の文化を学び、自分の地域文化についても考える内容である。
めあての例		・夜須高原に伝わる歴史や自然を感じよう。 ・夜須高原の森を歩きながら、自然に親しもう。
時期		通年
所要時間		2～3時間程度
人数		200人（30グループ）程度
手順		<事前準備> ・コースの下見を行う。 ・事前にグループ（4～6人程度）を作る。 ・事務室で無線機、フィールドマップ等を受け取る。 <活動前> ・自然の家職員から説明を受ける。 ・引率者は各分担場所へ移動する。 <活動中> ・2～3分程度おきにスタートする。 ・引率者は、途中の各分担場所でグループの通過確認等をする。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。 ・ゴール後、集計・採点をする。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール地点1名 ・チェックポイントなどに各1名
留意点		・熱中症対策を行う。 ・出発前にトイレを済ませる。 ・道迷い時は、必ず分かるポイントまで戻るように注意する。 ・グループで行動し、単独行動しない。 ・危険な動植物（ハチ、ヘビ、ハゼ等）の注意を促す。 ・雷が鳴ったら活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・安全のため、ゼッケンを着用する。 ・コース上にいのしし防止柵や罾の設置箇所があるため注意する。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	フィールドマップ、問題と解答用紙、無線機、ゼッケン、バインダー
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、帽子、水筒、タオル、軍手、レインコート
ふりかえりのポイント		・夜須高原の自然を五感で感じる事ができたか。 ・フィールドマップを見て目的のポイントに行くことができた。 ・安全に注意しながら活動ができたか。

○ひるもりビンゴ

活動の概要		フィールドマップに示されている５つのエリアにある９つのポイント（看板）を見つける。そこに書かれている動物や植物などを見つけ、ビンゴカードに看板の文字を記載し、全ての文字を揃え並び替えるとある文ができる。 本館近くのフィールドで実施するため、短時間で実施可能であり、幼児や低学年に適している。
めあての例		・自然の家の近隣のフィールドを探検し、自然に親しもう。 ・仲間とともに、協力して課題を解決しよう。
時期		通年
所要時間		３０分～１時間程度
人数		５０人程度
手順		<事前準備> ・コースの下見を行う。 ・事前にグループ（４～６人程度）を作る。 ・事務室で無線機、フィールドマップ・解答用紙等を受け取る。 <活動前> ・自然の家職員から説明を受ける。 ・引率者は各分担当場所へ移動する。 <活動中> ・２～３分程度おきにスタートする。 ・引率者は、途中の各分担当場所でグループの通過確認等をする。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。 ・ゴール後、集計・採点をする。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール地点１名 ・チェックポイントなどに各１名
留意点		・熱中症対策を行う。 ・出発前にトイレを済ませる。 ・道迷い時は、必ず分かるポイントまで戻るように注意する。 ・グループで行動し、必ず全員でゴールする。単独行動しない。 ・危険な動植物（ハチ、ヘビ、ハゼ等）の注意を促す。 ・雷が鳴ったら活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	フィールドマップ、問題と解答用紙、無線機、バインダー
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、帽子、水筒、タオル、軍手、レインコート
ふりかえりのポイント		・夜須高原の自然を五感で感じる事ができたか。 ・フィールドマップを見て目的のポイントに行くことができたか。 ・安全に注意しながら活動ができたか。

○館内ビンゴ・館内ウォークラリー

活動の概要		○館内ビンゴ ・館内版フィールドビンゴ。 ○館内ウォークラリー ・決められたルートを「コマ地図」を頼りにゴールを目指す。
めあての例		・仲間とともに、協力してゴールを目指そう。 ・館内を歩きながら、活動や生活で使う場所をきちんと覚えよう。
時期		通年
所要時間		・館内ビンゴ：１時間３０分程度 ・館内ウォークラリー：１時間程度（グループ数によって異なる）
人数		制限なし
手順		<事前準備> ・事前にグループ（４～６人程度）を作る。 ・団体の引率者は職員からルールや注意点の説明をうける。 <活動中> ・館内ビンゴは、一斉スタートさせる。 ・館内ウォークラリーは、２～３分おきにスタートさせる。 ・ゴール後、集計・採点をする。 <活動後> ・人数や体調などを確認し、ふりかえりの時間を設定する。 ・ゴール後、集計・採点をする。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール係（本部）１名
留意点		・研修室やプレイホール等で活動する他団体の妨げにならないよう注意を促す。 ・宿泊室の中に入らないよう伝える。 ・雨天時は、廊下や階段は滑りやすいため、走らないよう注意を促す。 ※屋根のない屋外に出ることはほとんどない。
準備物	施設借用可	解答用紙等、バインダー
	団体準備	筆記用具
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・仲間と協力し、活動をすることができたか。 ・館内の施設を覚えることができたか。

○ナイトハイク・きもだめし

活動の概要		夜の森の中を歩きながら、暗闇につつまれた森を感じる活動である。 昼と異なる夜の自然に触れることを通して、自然への理解を深めるとともに、五感を研ぎ澄ます感覚を養うことができる。 ナイトハイキングは、星と夜景の丘コース・五玉神社周回コース・エルモおさんぽコース・炊飯場おさんぽコースがあり、きもだめしコースは、五玉神社周回コースがある。
めあての例		・普段はあまり経験することのできない暗闇を体験しよう。 ・昼間の自然とは異なる雰囲気、夜の自然の中で感じよう。
時期		通年
所要時間		1～2時間程度
人数		制限なし
手順		<事前準備> ・明るいうちに下見を行い、危険箇所などを確認する。 <活動中> ・無線機を自然の家事務室から受け取る。 ・引率者は各分担場所へ移動する。 <活動中> ・グループ活動の場合、引率者はコースや集合場所を説明する。 ・星と夜景の丘コースは途中、車道横の歩道を歩くため車の通行に注意する。 ・グループでの活動の場合は、2～3分間隔でスタートする。 <活動後> ・夜間の活動であるため人数確認は十分に行うようにする。
引率者の配置・人数		・自然の家（本部）、先頭、中盤、後方に各1名 ・ポイント（道路横断箇所など）に引率者を各1名。
留意点		・ナイトハイクでは、参加者に静かに森の中を散策すること、途中で驚かせることはしないよう伝える。 ・きもだめしでは、過度に驚かせることはしない。 ・他団体が活動している場所（キャンプファイヤー場や野外炊飯場等）などを通る際には、その団体の活動に支障がないように配慮する。 ・他団体もナイトハイクやきもだめしを実施している場合は、代表者連絡会で団体同士のコースやポイントを確認する。 ・コース上にいのしし防止柵や罟の設置箇所があるため注意する。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	フィールドマップ、無線機
	団体準備	救急セット
	個人準備	懐中電灯、長袖、長ズボン（足首が隠れる服装）、 （※秋～冬にかけては、防寒着） 夏は特に虫が多いので、その対策にも注意する。
ふりかえりのポイント		・夜の森を歩きながら感じたことはなにか。

○テント泊

活動の概要		自然の中に、テントを立て仲間とともに生活の場を作ることや自然を感じながらの宿泊をする中で、協力が生まれ、豊かな人間関係を築き、自然への関心を深めることができる。
めあての例		・日常生活では体験できない、自然の中での生活を通して、自然を身近に感じる。 ・仲間と協力し、楽しく過ごそう。
時期		4月～10月
所要時間		説明30分程度・組み立て30分程度・片づけ1時間30分程度
人数		100名程度まで（第1キャンプ場）
手順		<事前準備> ・事前下見を行い、設営場所を確認する。 ・職員からテント設営・片付け等の説明を受ける。 <テント設営手順> 1. テント関係の物品を自然の家職員が準備する。 2. 自然の家職員から設営の説明を行う。 3. テントを設営する。 4. テント内にマットを敷き、その上から寝袋を広げる。 <テント撤収手順> 1. 朝露で濡れている場合は、雑巾等でふきとり乾かす。 2. テント内をほうきで掃除する。 3. テントを撤収する。 4. 無線で職員に連絡し、点検を受ける。 ※雨天の場合もしくはテントが乾いていない場合は、自然の家職員の指示に従う。
引率者の配置・人数		引率者もテントで泊まることが望ましい。
留意点		・テントの生地は破れやすいので、取り扱いには十分注意する。 ・テントの収納袋及びペグを紛失しないよう管理する。 ・フレームの先が他の人に当たらないよう、周りにも配慮し組立・撤収を行う。 ・テントの出入り口は、一定方向に設置する。 ・雷が鳴り出したら、テントから離れて室内または所定の避難所へ速やかに移動する。 ・冬場は防寒対策を行う。
準備物	施設借用可	テント（4人用）、ペグ、寝袋、マット、グランドシート、電池式ランタン、寝袋シーツ（1枚300円）
	団体準備	
	個人準備	虫除けスプレー、軍手、懐中電灯、ぞうきん（各テント2枚以上）、電池
ふりかえりのポイント		・テントで泊まって感じたことはなにか。 ・自然の中で過ごして気づいたことはなにか。

○里地里山ウォークラリー

活動の概要		夜須高原は、日本の典型的な里山の水源エリアであり、そこに育つ樹木が災害を防ぎ、動植物の住処を提供している。さらには、暮らす人々の里山の維持・保全に燃料としても活用され文化・生活を作り出している。しかしながら、高齢化などのさまざまな理由によって、里山の維持・保全に課題を抱える地域である。 そこで、里山に寄り添った生活サイクルについて、ウォークラリーを通して自らの生活に結び付け、持続可能な社会の在り方について考える。
めあての例		・里地里山の環境について、体験する。 ・自分の生活する地域との関連性を学ぶ。
時期		通年
所要時間		1時間30分～2時間程度（約3km）
人数		200人（30グループ）程度（逆回りコースも利用できる）
手順		<事前準備> ・コースの下見を行う。 ・グループ（5～6人程度）を作る。 ・事務室で無線機、コースマップ・解答用紙を受け取る。 <活動前> ・自然の家職員から説明を受ける→引率者は各分担場所に移動する。 <活動中> ・2～3分程度おきにスタートする。 ・引率者は、途中の各分担場所でグループの通過確認等を行う。 <活動後> ・参加者の人数や体調などを確認する。 ・ゴール後、チェックポイントの答え合わせを行い、個人の気づきを班ごとや全体で共有する。
引率者の配置・人数		・スタート・ゴール地点1名 ・森エリアなどに数名 ・折り返し地点に1名 ※合計で最低4名は必要
留意点		・熱中症対策を行う。 ・出発前にトイレを済ませる。 ・道迷い時は、必ず分かるポイントまで戻るように注意する。 ・グループで行動し、単独行動しない。 ・危険な動植物（ハチ、ヘビ、ハゼ等）の注意を促す。 ・雷が鳴ったら活動を中止し、速やかに安全な場所まで避難するか、施設まで戻る。 ・安全のため、ゼッケンを着用する。 ・霧が深い場合の実施判断は自然の家が行う。
準備物	施設借用可	コースマップ・解答用紙・無線機・ゼッケン
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、バインダー、長そで、長ズボン（足首が隠れる服装）、帽子、軍手、水筒、タオル（目隠しとしても使用）、レインコート
ふりかえりのポイント		・各エリアで各々がどのようなことを感じたのか。 ・どんな気づきがあったか。

『ゲーム・レクリエーション活動』

○キャンプファイヤー	．．．．．	P 1 7
○キャンドルのつどい	．．．．．	P 2 0
○草スキー	．．．．．	P 2 3
○ニュースポーツ	．．．．．	P 2 7

○キャンプファイヤー

活動の概要		火を囲みながら、レクリエーションや出し物などを通して、火の大切さを感じたり、仲間との絆を深めたりする活動として多くの団体が実施している。 決まった流れや形式はないので、それぞれの団体が工夫して実施することで効果的に行うことができる。
めあての例		・火と闇の力を使いながら、楽しい思い出を作ろう。 ・自分の役割を果たし、仲間のがんばりを認め合おう。 ・火の大切さや明るさを感じ、普段とは異なる雰囲気を楽しもう。
時期		通年
所要時間		1～3時間程度
人数		第1：200人、第2：100人、太陽の広場：150人、
手順		<事前準備> ・子どもたちの役割分担などを行い、必要な物品を準備する。 <活動前> ・売店に灯油を取りに行く。 ・薪をリヤカーや一輪車でファイヤー場に運ぶ。 ※各ファイヤー場で受け取り場所が異なる（要確認）。 ・無線機や貸出物品は事務室で受け取る。 <活動中> ・ファイヤー場に入場する前から雰囲気作りを行うことで効果的な活動となる。 <活動後> ・薪は可能な限り全て燃やす。燃え残った場合は、水をかけて完全に消火し、翌朝までに灰捨て場に片付ける。 ・借用物品を事務室に返却する。 （灯油の入っていたペットボトル、無線機）
引率者の配置・人数		・火の管理、司会（補助）・・・各1名
留意点		・風が強い場合には火の扱いに気をつけ、場合によっては自然の家から中止を指示する場合がある。 ・革手袋を使用した方が望ましい（必要に応じて貸し出し）。 ・始める前に、火に近づかないなどのルールを確認する。 ・トーチは腕を伸ばし高くして持つ。 ・薪や丸太はできるだけ燃やし、灰は水を掛け確実に消火し、所定の灰捨て場へ運ぶ。 ・夏季中は19：30頃まで明るい。 ・消火用のバケツと緊急用の消火器の保管場所を確認し、バケツには水を入れておく。
準備物	施設借用可	アンプ、懐中電灯、無線機、マイク、革手袋、なた（井げたを組むときに使う）、バケツ
	団体準備	トーチ（1m20cm以上）、マッチ、軍手、火の長や火の神などの衣装、出し物などの道具
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・活動の中で、静かに活動をふりかえる時間や仲間達と話す時間を設けるなどして、全体のふりかえりとして位置づけると良い。

キャンプファイヤー展開例

No1.

◎ 大自然の中で、闇と炎が醸し出す情景は神秘的であり、火を囲みながら厳粛なセレモニーと楽しい交歓を通して、自己を見つめ未来への希望を抱き、お互いの友情を深め、ともに喜び味わう感動的なついでである。

全体説明、 会場準備、 リハーサル、 60分	第1部、 15分	第2部、 60分	第3部、 20分	あと、 始末、 10分	翌朝、 あと、 始末、 15分
全体説明 1. 展開のしかた。 2. うたの練習。 3. 入場隊形（円隊形）。 4. 役割決め。 ・司会者（1～2名）…引率者。 ・営火長（1名）…引率者。 ・火のつかい…仙人（引率者） 又は火の神（男子児童・生徒） 又は女神（女子児童・生徒）。 ・誓いのことは係（各グループ1名）…児童・生徒。 ※ 全体説明は事前に学校で説明してあれば当日は省略してもよい。 ※ 各グループとは、出し物をするグループのこと。 ※ 元火を持って入場する人は、仙人が火の神又は女神のいずれか1人を決める。 ※ 司会者は1・3部を引率者、2部を児童・生徒が行ってもよい。	第1部 火を迎える儀式 1. 全員入場。 2. うた「遠き山に日は落ちて」 燃えているトーチを持って仙人又は火の神（女神）が入場。 3. 営火長のことば。 4. 火床に点火。 5. うた「燃えるよ燃えろ」。 ※ 仙人又は火の神（女神）は派手にならない程度に扮装するとよい。 ※ 第1部はあまり手聞取らないように留意すること。 ※ 点火方法によっては、仙人又は火の神（女神）の出番及び仕方が違ってくる。	第2部 交歓のついで 1. みんなで楽しくゲーム（10分）。 2. 各グループの出し物（40分）。 3. みんなで楽しくダンス（10分）。 ※ 最初のゲームは、第1部の緊張感をほぐし楽しい雰囲気を作るために行う。 ※ 出し物時間は5～7グループにまとめた方がよい。出し物の時間は各5分以内。なお、多人数のため8グループ以上になるときは、各2～3分以内とする。 ※ 最後はまたみんなで愉快なダンスをすればまとまりやすく、第3部への移行がスムーズにできる。	第3部 火を送る儀式 1. うた。 「ふるさと」又は「一日の終わり」 2. 営火長の言葉。 営火長はトーチで火床から点火して右手にさしながら、火にまつわる話や人生訓話を述べる。 3. 分火。 各グループの誓いのことは係はトーチを持って営火長の前に集まり、火をつけてもらう。 4. 誓いの言葉。 5. うた「今日の日はさようなら」。 6. 全員退場。 ※ 誓いの言葉を言うときは、自分たちのグループの前で火床に向かって言う。 ※ トーチを持った誓いの言葉を係を先頭に各グループごとに退場する。 ※ 退場後、火床にたっぷり水をかけておく。翌朝始末する。		

No2.

第1 キャンプファイヤー場で行う場合。

展開	内容	備考
集合	全員、つどいの広場に集合する。 営火長、火のつかい、放送係はキャンプファイヤー場でそれぞれ所定の位置につく。	・ 外灯をつける。 ・ 全員円形に並び終わって内側を向いたら、外灯を消す。
1. 全員入場 (司会者)	司会者の合図で入場する。左回りに入場し、火床を囲んで円形に並び、内側を向く。 雄大な自然に囲まれた、ここ夜須高原にある青少年自然の家にも夜のとりがおりて参りました。ただいまから、_____団体、_____名によるキャンプファイヤーを行います。それでは、夜のうたを歌いながら、聖火を迎えることにしましょう。	
2. うた 火のつかい 入場 (司会者)	全員斉唱「遠き山に日は落ちて」 ※BGM カセットテープ。 火のつかいにより聖火を運んでいただきました。 それでは、火のつかいは営火長にトーチを渡してください。 火のつかいは、営火長にトーチを渡した後、営火長の横に並び。 営火長のことばをお願いします。	火のつかい入場
3. 営火長のことば (営火長)	ここに、皆さんの友情と団結を図るために聖火を迎えました。この火は若者のシンボルであります。そして、情熱を表す火でもあります。火は人類とともに歴史を刻んで参りました。火は人々に安らぎを与え、希望を抱かせ、勇気を奮い立たせてきました。火は人類にとって最も神聖な物として崇拝されてきたのはこのためです。 この火を囲んで、このキャンプファイヤーが青少年自然の家の活動のまともにふさわしく、厳粛な中にも自分自身を見つめる機会となり、友情をあたため、そしてたゆむことなく前進する決意を固め、心の奥深くいつまでも美しく、しかも楽しい思い出となるよう祈りたいと思います。	・ 営火長はトーチを右手で高く掲げながら話す。
4. 点火 (司会者)	それではこれから点火をしていただきます。 点火！ 薪が燃えだしたら、みんなで歌う。	
5. うた (司会者)	全員斉唱「燃えるよ燃えろ」 ※BGM カセットテープ。 赤々と燃えさかるこのファイヤーを囲んで、さあ第2部、親睦のつどいに入りましょう。 営火長及び火のつかい自分の席へ戻る。	・ 外灯をつける。

準備時間	1. うた・ゲーム	雰囲気づくりのうたやゲームを取り入れる。	
	2. 出し物	各班（各クラス）の出し物。 ・ 出し物の班は、8班ぐらいにまとめた方が時間的にも良い。 ・ 一班の出し物の所要時間は、5分以内と決めておくのが良い。 ・ 出し物は、寸劇など、知恵を出し合い、工夫した物が良く、例えば研修活動や学校での出来事、昔話、新聞の話題、小説、物語などをヒントにして、自分たちに合った劇にアレンジするなどすれば、そんなに難しいものではないことをアドバイスしてあげると良い。	
	3. ゲーム・ダンス	みんなで楽しいゲームやダンスをして第2部をまとめると効果的である。	
本時間	(司会者)	司会者は最初の隊形と同じく、全員円形に整列するよう指示する。 営火長及び営火係にトーチを渡しておく。 楽しく歌ったり、踊ったりしているうちに、夜もだいたいふけて参りました。これから火を送る儀式に入ります。それではみんなで「一日の終わり」を歌いましょう。	・ 全員円形に並び終わったら、外灯を消す。
	1. うた 採火 (司会者)	全員斉唱「一日の終わり」 ※BGM カセットテープ うたの終わり頃に、営火長はトーチで火床から採火し、元の位置へ戻る。 「営火長のことをお願いします。」	
	2. 営火長のことば	チロチロと燃え残る火を見つめてください。このファイヤーの薪もかつては青々と枝葉を茂らせた1本の木だったのです。今、私たちのために燃えさかり、やがて灰となり、自然に帰ろうとしています。この火は、私たちを神秘的な遠い原始の世界に誘い込んでくれたようです。そしてまた、火の美しさ、厳しさ、たくましさ、優しさなど、多くのことを教えてくれたような気がします。この薪が私たちのために、光と熱を与えてくれたように、私たちも人のため、世の中のために光を掲げ、役立とうではありませんか。 長い人生のほんの一コマに過ぎない、この青少年自然の家での一夜ではありますが、ここで生まれた友情の火をいつまでも大切に、お互いが助け合って生きていくことを願って、まとめのことばと致します。	・ 営火長はトーチを右手で高く掲げながら話す。
	3. 分火 (司会者) (司会者)	「各班の営火係は、営火長の前に集まってください。」 営火係はトーチを持って、営火長の前に横一列に並び。 「営火長より、各班（各クラス）の代表に火を分火していただきます。分火！」	

本時間	(司会者)	まず、第1班の営火係は営火長の前に進み出て、トーチを差し出し、営火長のトーチから火を分火してもらう。以下、各班とも順次、同様に行う。 営火係全員、分火が終わったら、各班に戻り、班の前に立つ。 「それでは、各班を代表して、誓いのことばを述べていただきますよう。誓いのことば！」	・ 営火長は営火係に分火するとき、「あなたに入場の火を授けます。」など、一言ずつ言っても良い。
	4. 誓いのことば (司会者)	誓いのことばの一例。 ○ 私たち（僕たち）は、この研修で得たものを明日からの生活に生かし、いつも悪習を尽くしていくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、ここで学んだ友愛と奉仕の精神をこれからの実践活動に生かし、常に努力していくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、若者らしく誠実に力強く理想に向かって、前進していくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、このファイヤーの光のように、常に世の中を明るくしていくよう、心掛けることを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、この宿泊研修で育んだ仲間との友情を、いつまでも保ち続けることを誓います。 「各班とも明日へ向かって力強い誓いのことばを述べてもらいました。それでは、最後にみんなで「今日の日はさよなら」を歌って終わることにしましょう。」	・ 営火係は1班から順次トーチを高く掲げて誓いのことばを述べる。 ・ この一例は、中・高生向きです。小学生の場合は、「僕たちは、友達と仲良くすることを誓います。」など、簡単に表現しても良い。
	5. うた (司会者)	全員斉唱「今日の日はさよなら」 ※BGM カセットテープ 「今夜は、お互いに協力しあって、すばらしいつどいを過ごすことができました。これでキャンプファイヤーを終わることに致します。おつかれさまでした。それでは各班とも、トーチを掲げた営火係を先頭に静かに退場しましょう。」	
	6. 全員退場 解散 後始末 ※翌日の朝	1班から退場・・・各班とも営火係はトーチを掲げて先頭に立ち、退場する。 つどいの広場に誓いたら、トーチは水を汲んだバケツで消す。 代表者の指示により、解散する。 設営係はキャンプファイヤー場の後始末をする。 火床は十分水をかけて完全に消しておく。 灰及び燃えかすは翌日朝、焼却場へ運び、焼却炉の中に全部入れて始末する。	・ 外灯をつける。 ・ 灰や燃えかすの始末は、スコップ、一輪車、エビジョウケ等がありますので事務室に申し出てください。

※あくまでも展開例です。参考にしてください。

○キャンドルのつどい

活動の概要		ろうそくの火を囲みながら、レクリエーションや出し物などを通して、火の明るさや大切さを感じたり、仲間との絆を深めたりする活動として多くの団体が実施している。 決まった流れや形式はないので、それぞれの団体に工夫して実施することで効果的に行うことができる。
めあての例		・仲間とともに活動を楽しもう。 ・自分の役割を果たし、他の人の役割を認め合おう。 ・火や闇の神秘さなど、普段とは異なる雰囲気を味わおう。
時期		通年
所要時間		3時間程度
人数		プレイホール（300人）、L4（100人）、L3（60人）、L5（150人）、L7（80人）程度（会場要確認）
手順		<活動前> ○活動場所の準備をする。 ・ラーニングルームは机をよけて活動スペースを作る。 ・燭台の下には防災シート（白）を敷く。 ○借用物品を事務室から借りる。 ○必要に応じてリハーサルを行う。 <活動中> ○燭台に近づかないように配慮する。 <活動後> ○終了後の雰囲気を大切に、事務連絡などではできるだけ活動前に行うなど工夫する。 ○燭台の灯が消えているか確認し、元の場所に戻す。 ○借用物品を事務室に返却する。
引率者の配置・人数		火の管理、司会（補助）各1名
留意点		・キャンドルのつどいのプログラム例は、別紙を参照する。 ・始める前に、防災シートの範囲内に立ち入らない等の指導を行う。 ・プレイホールは、上靴を履く。 ・研修室で活動する場合は、机やイスの出し入れが必要になるため、その時間を確保することが必要になる。 ・グループの出し物を取り入れるなど、全員が関わるようなプログラムを実施する。 ・手持ちろうそくに分火するときは、火がついてない手持ちろうそくを火がついているろうそくに近づけて点火する（火がついているろうそくを傾けるとロウが垂れてしまうため）。 ※燭台のろうそくの本数 プレイホール：32本、L4：17本、L3：7本、L5：15本、L7：6本 ※火の長・火の神の衣装は、宿泊室用シートで代用可
準備物	施設借用可	アンプ、マイク、懐中電灯、燭台、防災シート、燭台用、ろうそく（大）
	団体準備	個人用トーチ、個人用ろうそく、マッチ、火の長や火の神の衣装、出し物用の道具
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・全体のふりかえりとして、期間中に、個人やグループ等で今日あった出来事などを思いかえしたり、話し合ったりする時間が設定できるとよい。

キャンドルのつどい展開例

【プレイホールで行う場合】

No1.

展開	内容	備考
集合	全員、1階ホールまたは2階ホールに集合する。各班ごとに整列する。 火の長（おさ）、司会者、放送係は所定の位置につく。「火のつかい」は放送室で待機する。	・天井のライト No①のスイッチのみつけておく。 ・入場し、並び終わったら、司会者の合図で天井のライトを消す。
1. 全員入場 （司会者）	司会者の合図で、静かに入場する。左回りに入場し、端台を囲んで円形に並び、 100人のとき二重円、200人のとき三重円、300人のとき四重円、400人のとき五重円にすると良い。 「太陽がほのぼのと光を注ぎ、風が舞い、鳥が踊る、ここ夜須高原の自然にも静かな夜が訪れて参りました。ただいまから、_____団体、_____名によるキャンドルのつどいを行います。それではみんなで夜の歌を歌いながら、灯（ともしび）を迎えることにしましょう。」	
2. うた、 火のつかい入場 （女神） （司会者）	全員斉唱「遠き山に日は落ちて」 ※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ。 歌い始めたら、火のつかいはトーチを掲げながら入場する。円陣の内側を左回りして、火の長の前に向かい合う状態に止まる。 「ただいま、火のつかいにより灯（ともしび）を持ってきていただきました。それでは、火のつかいは火の長に灯を渡してください。」 ・火のつかいはトーチを火の長に渡す。渡した後、火のつかいは火の長の横に並び、 （司会者）「火の長のことをお願いします。」	
3. 火の長のことば （火の長） （司会者）	「今ここに、皆さんの友情と団結を図るために、聖火を迎えました。この火は若人のシンボルであります。そして、情熱をあらわす火でもあります。人類は火とともに歴史をつくってきました。火は人々に安らぎを与え、希望を抱かせ、勇気を奮い立たせてきました。火が人類にとって最も神聖なものとして崇拝されてきたのはこのためです。 この火を囲んで、このキャンドルのつどいが研修活動のまとめにふさわしく、厳粛な中にも自分をつみつける機会となり、さらに友情を温め、そしてたゆむことなく前進する決意をかため、心の奥深く、いつまでも美しく、しかも楽しい思い出となるよう祈りたいと思います。」 （司会者）「火の守は中央端台からキャンドルを1本ずつ持って火の長の前に集まってください。 それでは、火の長より灯を分火していただきます。 分火！」	

放送室

No2.

4. 分火 （司会者）	「火の守は中央端台を囲んでください。 それでは、明日へ向かっての誓いのことばを述べていただきます。誓いのことば！」	・火の長は火のつかいにキャンドルの元火を渡す。 ・火の守は中央端台を囲む。 ・手に持ったキャンドルを高くかざして誓いの言葉を述べる。 ・この一例は、中・高生向けです。小学生の場合は、「私たちは、友達と仲良くすることを誓います。」など、簡単に表現しても良い。
5. 誓いのことば （火の守）	誓いのことばの一例 ○ 私たち（僕たち）は、常に世の中を明るくしていくよう、心掛けることを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、誠実に力強く理想に向かって、前進していくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、いつも最善を尽くし、努力していくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、お互いに協力して友達を大切にしていくことを誓います。 ○ 私たち（僕たち）は、心と体を磨いて社会の為に尽くしていくことを誓います。	
6. 点火 （司会者） （司会者）	「それぞれの思いを込めて、力強く誓いを述べていただきました。 それでは、これから点火をしていただきます。 点火！」 「みなさんご覧ください。1本の元火から、2本、4本、8本・・・とたくさんのキャンドルに火がともりました。そして、より明るく、より暖かく私達を照らしてくれます。さあ、それでは、ほのぼのとした灯を見つめながら、みんなで元氣よく歌を歌いましょう。」	
7. うた	全員斉唱「若者たち」 ※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ	・火の守は自分の持っているキャンドルを端台に置いて、まだともしていないキャンドルをとって火をつける。 ・最後に火のつかいが端台に進み出て、元火を一番上に置く。 ・火のつかいと火の守は、端台から一歩離れてその位置で歌を歌う。
8. 第2部への導入 （司会者）	「火のつかい、そして火の守のみなさん、ご苦勞様でした。おかげさまで。おかえりください。」 「さあ、これから第2部、交歓のつどいです。司会者を紹介します。〇〇さん、どうぞ！」	

第1部

第1部	1. うた・ゲーム	雰囲気づくりの歌やゲームを取り入れる。	
	2. 出し物	各班（各クラス）の出し物 ・ 出し物の班は、全体で8班以内ぐらいいまどめた方が時間的にもよい。 ・ 一班的所要時間は、5分以内と決めておくのがよい。 ・ 出し物は、寸劇など、知恵を出し合い工夫したものがよく、例えば研修活動の出来事、学校での出来事、昔話の現代版とか、新聞の話題とか、小説、物語などをヒントにして、自分たちに合った劇にアレンジするなどすればそんなに難しいものではないことをアドバイスしてあげるとよい。また、歌を歌いながら自分たちで創作した隔りをするなどでもよい。 ・ 歌を歌うだけとか、クイズ、なぞなぞ等は意外とつまらない。自分たちで苦労して創意工夫した出し物をみんなに見てもらおうということが大切である。	・ 出し物交歓をするときは、ステージを使ってもよい。
	3. ゲーム・ダンス	みんなで楽しいゲームやダンスをして第2部をまとめると効果的である。	
第2部	（司会者）	司会者は、第1部の時の隊形と同じく、全員円形に整列するよう指示する。 火の長と火のつかいも第1部の時の位置につく。 「楽しく歌ったり、踊ったり、出し物の交歓をしているうちに、夜もだいぶふけて参りました。これから、火を送る儀式に入ります。さあ、それではみんなで「一日の終わり」を歌いましょう。」	・ 天井のライトを消す。
	1. うた	全員斉唱「一日の終わり」又は「ふるさと」※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ	
	2. 消火	全員で歌っている時に、火のつかい（女神）は中央舞台のキャンドルの火を一本ずつ消していく。ただし、火のつかいが第1部の時に持ってきた一番上の元火だけは消さないで残しておく。 「詩の朗読をしてもらいます。詩を朗読する人は中央舞台の所に出て来てください。」	・ 備え付けの竹のひしゃくで下の方から消していく。
	3. 詩の朗読 （司会者）	詩の朗読係（1名）は、中央舞台のそばで詩の朗読をする。 「火の長より終わりのことばをお願いします。」	・ 消したら、火のつかいは自分の班に戻る。
			・ 詩の朗読は省略してもよい。

第2部	4. 火の長のことば （火の長）	「この研修を通して皆さんはたくさんの友達を得たことでしょう。一つ屋根の下でお互い心と心をつなぎ、楽しく語り合い、研修しあった仲間、そしてすばらしい友を得た感謝・・・この出会いを大切に、ともに励まし合い、明日からの新しいスタートを力強く踏み出して下さい。『友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする』と言われています。一本のキャンドルの光は小さいけれど、暗闇をこんなに明るく照らします。この光が消えても、心の中にいつまでも友情の火を燃やし続けてください。そして嬉しい時、悲しい時、寂しい時、このキャンドルの火と素晴らしい仲間を思い出しながら、力強く生きていくことを願って終わりの言葉といたします。」 「最後に、みんな『今日の日はさよなら』を歌って終わることにしましょう。」	
	5. うた	全員斉唱「今日の日はさよなら」 ※伴奏：エレクトーン、アコーディオン、カセットテープ 「今宵（こよい）は、お互いに協力しあって、素晴らしいつどいを聞くことができました。これでキャンドルのつどいを終わることにいたします。」	
	6. 全員退場	1班から順次、静かに退場する。 または、司会者の指示でその場で引き続き連絡会などにあててもよい。	・ 退場のとき、天井のライトを一つつける。 ・ 後始末をする。

※展開例のため、団体独自で変更ください

「ゲーム・レクリエーション活動」

草スキー

1. 活動の概要

草スキー場で木製のそりに乗って、斜面を滑走する。
(距離は30メートル程度、最大斜度は30度程度で上から見ると少し恐怖感を感じる場合もある)

2. めあての例

- ・斜面を滑る感覚を体で感じて楽しもう。
- ・そのの乗り方を工夫することで、バランス感覚を養おう。
- ・仲間たちと楽しく活動しよう。

3. 時期

通年

4. 所要時間

1時間～2時間程度(乗り方や滑り方等の説明約15分を含む)

5. 最大人数

40名

6. 引率者の配置・人数

スタート・ゴール 各2名

7. 準備物

- ・施設貸出物品
専用ソリ、無線機、ヘルメット、肘当て、膝当て
- ・団体準備
救急セット
- ・個人準備
長そで、長ズボン、軍手、帽子、水筒、タオル ※サンダル等不可

8. 振り返りのポイント

- ・ルールを守って仲間と楽しめたか。

9. SDGsとの関連



10. 活動の手順

(1) 活動前

- ① 自然の家事務室にて、活動プログラム資料・無線・乗車小屋の鍵をもらう。



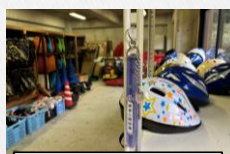
- ② 自然の家本館から、乗車小屋前まで移動する。(徒歩10分、500m)



- ③ 乗車小屋倉庫内にある草スキーのソリとヘルメット、肘当て、膝当てを装着する。※軍手(持参物)も装着する



開錠してください



鍵はこうにかけてください



トイレは裏にあります



ヘルメット



肘当て



膝当て

- ④ 草スキー場に移動し、引率者が滑り方・注意点について説明する。(資料4ページ参照)

- ⑤ 引率者の試走を見せる。

(2) 活動中

- ① スタート地点に2人、ゴール地点に2人の引率者を配置してください。(2面使用の場合)
- ② 引率者の指示のもと活動を行う。
- ※ 最初は練習として、半分の距離の場所から滑るようにする。
 - ※ 追突や転倒に十分注意しながら活動を行う。

(3) 活動後

- ① 人数や体調（ケガ）の確認をする。
- ② 活動終了後にソリ、ヘルメット、肘当て、膝当てを倉庫に戻す。



- ③ 乗車小屋倉庫の電気消灯と、鍵の施錠を行い、本館に移動する。
- ④ 自然の家事務室にて、活動プログラム資料・乗車小屋の鍵・無線を返却し、ケガ等の有無を報告する。

11. 留意点

- ・荷物（水筒・リュック等）は持たずに乗る。名札を外す。
- ・コース脇の木製フェンスから一定の間隔をあけ、コースの中央を滑る。
- ・1人ずつ滑る。
- ・滑り終わったらその場を離れ、周りに注意しながらコースの脇の階段を使って上がる。
- ・コースは横切らない。
- ・2人乗りはしない。
- ・草スキー場に日陰がないため、特に夏場の熱中症に十分注意する。
- ・草スキー場にはトイレがないため、乗車小屋でトイレは済ませておく。

草スキー 滑り方・注意点

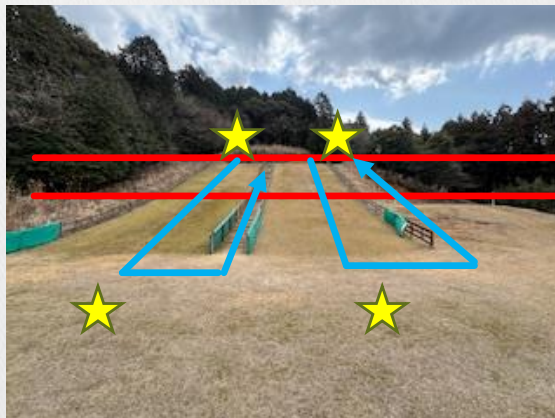


滑り方

- ① 座席に深く座る。
 - ② 両手はしっかりとひもを握る。
 - ③ 足は足置きに乗せる。
 - ④ 斜面を滑る。
 - ⑤ かかとを地面につけてブレーキをかける。
- ※ 手でブレーキをかけない

注意点

- 注意 1** 安全のため、必ず長そで、長ズボン、軍手、ヘルメット、肘当て、膝当てを着用してください。
- 注意 2** かかとを地面につけてブレーキをかけ、絶対に地面に手をつかないでください。
- 注意 3** 前方の安全を確認し、前に人がいるときにはスタートしないでください。※ 引率者がスタート地点に立ち、指示を出してください。



スタート地点（1 番上）

スタート地点（半分）

※最初はここから滑りましょう

※ スタート地点に 2 人、ゴール地点に 2 人の引率者を配置してください。★
（2 面使用の場合）

○ニュースポーツ

活動の概要	ニュースポーツは、技術やルールが比較的簡単で誰でも、どこでも、いつでも容易に楽しめ、参加者全員で協力することで仲間作りにつなげることができる。	
めあての例	○日常体験しないゲームやスポーツを通して、体を動かす楽しさを感じよう。 ○作戦を考えたり、声を掛け合ったりしながら、友情を深めよう。 ○ルールをみんなで考えながら、ゲームを楽しもう。	
時期	通年	
所要時間	1時間～3時間程度	
人数	・ペタンク（5セット） ・ユニカール（2セット） ・ビーンボウリング（2セット） ・シャッフルボード（4セット） ・ポッチャ（4セット） ・インディアカ（2セット） ・グランドゴルフ（3セット） ・ピロポロ（2セット） ・キンボール（2セット） ・スポーツ雪合戦（1セット） ・ドッジビー（10） ・アジャタ（1セット）	
手順	<事前準備> ・ルールを確認する。 ・事前にグループやチームを作る。 <活動前> ・事務室で貸出物品の打合せ。 ・準備体操を行う。 <活動中> ・引率者はルール、やり方等を説明する。 ・審判や得点係等を担当する役割を分担する。 ・成績等の発表をする。 <活動後> ・用具の数を確認し、所定の場所に返却する。	
引率者の配置・人数	・活動毎に数名程度	
留意点	・活動前には、必ず準備運動をする。 ・物を大切に使用する（数の確認）。	
準備物	施設借用可	ニュースポーツの道具、得点板、ホワイトボード、ゼッケン
	団体準備	救急セット
	個人準備	筆記用具、運動ができる服装、帽子、水筒、タオル、体育館シューズ、運動できる靴
ふりかえりのポイント	・種目を体験してみての感想を発表する。 ・チームで工夫したところや考えたことなどを発表する。	

『水辺活動』

○川遊び・・・・・・・・・・ P 2 9

○溪流遊び・・・・・・・・・・ P 3 2

「水辺活動」

川遊び

1. 活動の概要

吊り橋近くで川をせき止め、水を溜めて遊びます。（第5炊飯場付近）
水位の調整が可能です。（深さは最大で30cm程度）

2. めあての例

- ・自然の水の冷たさや気持ちよさを体感しよう。
- ・川の生き物や植物に触れることを通して、自然に親しもう。

3. 時期

7～9月

4. 所要時間

2時間程度（30分ごとに休憩をとることが望ましい）

5. 最大人数

40人程度（幼児） 20人程度（小学生）

6. 引率者の配置・人数

- 全体把握1名・川の上流（スロープ手前）に1名
- ・川の下流（せき止め箇所）に1名

7. 準備物

- ・施設貸出物品
無線機（1台）・活動プログラム資料（本資料）
- ・団体準備
救急セット
- ・個人準備
水着、着替え、水筒、タオル、濡れてもよい靴（もしくは、
かかとのあるサンダル） ※ビーチサンダル・スリッパ不可

8. 振り返りのポイント

- ・川で遊ぶことで、感じたことはなにか。
- ・どんな自然の生き物や植物を見つけたか。

9. SDGsとの関連



10. 活動の手順

(1) 事前準備

- ・ 事前に下見を行い、休憩場所や危険箇所、川の状態などを確認する。



(2) 活動前

- ① 注意事項を説明する。

注意点

- ① 押さない・走らない
- ② 活動範囲（上流はスロープの柵・下流はせき止めのところまで）を守る
- ③ 必ず靴(かかとのあるサンダル)を履く
- ④ むやみに動植物に触れない
- ⑤ 岩の上に乘らない
- ⑥ 捕まえた生き物等は、自然に返す
- ⑦ 雨が降り始めたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、速やかに避難する

- ② 準備運動をする。

- ③ 引率者は川及び陸上から全体を監視する。

(3) 活動後

- ① 濡れた体をふき、体を冷やさないようにする。
- ② 人数や体調(ケガ)などを確認する。
- ③ 貸出の無線機で、自然の家事務室あてに活動終了の報告をする。
- ④ 自然の家事務室にて、貸出の無線機・活動プログラム資料を返却し、体調不良やケガ等の有無を報告する。

11. 留意点

- ・活動の留意点について、活動前に必ず説明・指導を行う。

注意点

- ① 押さない・走らない
- ② 活動範囲（上流はスロープの柵・下流はせき止めのところまで）を守る
- ③ 必ず靴(かかとのあるサンダル)を履く
- ④ むやみに動植物に触れない
- ⑤ 岩の上に乗らない
- ⑥ 捕まえた生き物等は、自然に返す
- ⑦ 雨が降り始めたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、速やかに避難する

- ・引率者は、全体の安全が確認できるところ・川の上流・川の下流に監視者を配置し、活動の安全を確保する。
- ・着替えに脱衣所等の利用を希望する場合は、事前に事務室に連絡する。
- ・熱中症に十分気を付け、こまめに水分補給を行う。
- ・せき止めた木の棒については、勝手に取り外さない。
活動終了の際も、せきはそのままにしておく。
(水位を変えたい場合は、無線機で事務室に連絡すること。)

○溪流遊び

活動の概要		野外炊飯場前小川の上流や下流を利用して水遊びができる。深さは、大人のひざ下（３０ｃｍ）程度である。 また、ホタルの里から下流へ約１００ｍ程度に渡って流れている沢で溪流遊びができる。幅は約３ｍ程度で、深さは最大で大人のひざ下（５０ｃｍ）程度である。
めあての例		・ 自然の水の冷たさや気持ちよさを体感しよう。 ・ 川の生き物や植物に触れることを通して、自然に親しもう。
時期		５月下旬～１０月上旬
所要時間		適宜（３０分ごとに休憩をとることが望ましい）
人数		・ 野外炊飯場下：２０名程度 ・ ホタルの里周辺：６０名まで
手順		<事前準備> ・ 事前に下見を行い、休憩場所や危険箇所を確認する。 ・ 事前指導として、安全面について十分に説明する。 ・ 活動場所や川の状態を十分に確認する。 <活動前> ・ 岩が滑ることを伝える。 ・ 職員からの説明を現地で受ける。 ・ 準備運動をきちんとし、ルールを伝える。 ・ 引率者は川及び陸上から監視し、さらに上流と下流に引率者を配置し、活動範囲を限定する。 <活動後> ・ 人数や体調などを確認する。 ・ 濡れた体を拭き、体を冷やさないようにする。
引率者の配置・人数		・ 全体把握１名、溪流内上流１名以上、溪流内下流１名以上 ※安全監視はできるだけ人数が多い方が好ましい。
留意点		・ 熱中症には十分気をつける。 ・ 活動中は、必ず靴（かかとを覆うシューズ）を着用する。 ・ 危険な動植物（スズメバチ、ハゼ、蛇等）がいることを把握しておく。 ・ 水辺活動のため、安全面の指導を行う。 ・ 溪流活動範囲内の上流と下流にそれぞれ監視者を最低１名は配置する。 ・ 引率者が参加者の安全を確認できる範囲内での活動を実施する（引率者の人数によって活動範囲を調整する）。 ・ 捕まえた生き物等は、必ず自然に返すよう指導する。 ・ 川底や岩などは、非常に滑りやすい場所があることを認識する。 ・ 着替えに脱衣場等の利用を希望する場合は、事前に事務室に連絡する。 ・ 岩が水面下になって見にくいいため、岩の近くに引率者が立つ。
準備物	施設借用可	無線機（１台）、ヘルメット（必要に応じて貸出可）
	団体準備	救急セット
	個人準備	水着、着替え、水筒、タオル、濡れてもよい靴、サンダル（かかとのあるものが望ましい）、ビーチサンダル不可
ふりかえりのポイント		・ 川で遊ぶことで、感じたことはなにか。 ・ どんな自然の生き物や植物を見つけたか。

『野外調理』

※各メニューの詳細については、別冊「利用の手引き」P34をご確認ください。

○野外炊飯全般	．．．．．	P34
○バーベキュー	．．．．．	P40
○ピザづくり	．．．．．	P41
○もちつき	．．．．．	P42

「野外調理」

野外炊飯全般

1. 活動の概要

包丁の使い方、野菜の切り方、ナタの使い方などといった生活技術を身につけるとともに、仲間と協力して食事を作ることの大切さに気づく活動である。

2. めあての例

- ・包丁やナタなどの道具を使えるようになるう。
- ・責任を持って自分の役割をはたそう。

3. 時期

通年（12月～2月は水道の凍結のため、不可能な場合あり）

4. 所要時間

4時間30分～5時間程度

5. 最大人数

290名

6. 引率者の配置・人数

各炊飯場に責任者1名、薪係1名、食材係1名、食器確認係1名、かまど係1名（各炊飯場に5名程度）

7. 準備物

- ・施設貸し出し物品
野外炊飯セット（1セット6人分）、無線機
※SDGsの観点から、マイ箸・マイ食器の持参をお勧めしています。
- ・団体準備
軍手、ふきん、ぞうきん、マッチ、牛乳パック（新聞紙）、クレンザー、食器洗い用洗剤、ハンドソープ、救急セット/必要に応じて皮むき器、うちわ、割りばし

8. 振り返りのポイント

- ・係の役割に責任を持って取り組むことができたか。
- ・安全に留意して活動することができたか。

9. SDGsとの関連



10. 活動の手順

(1) 事前準備

① 野外炊飯場の下見を行う。

※第3炊飯場と第2、第4、第5炊飯場の形及びかまどの数が違うので注意すること。



第2.4.5 炊飯場



第3 炊飯場

② 6名のグループを作成し、各グループに下記の役割を作る。

薪・かまど係：2名 食材係：2名 食器係：2名

(2) 活動前

① 入所時に事務室で担当者と事前の打ち合わせを行う。

※**野外炊飯実施計画書**（添付1）を使って内容を確認する。

② 各炊飯場に移動し、担当職員に説明を受ける。

(3) 活動中

① 刃物によるけがに十分注意する。

※薪割りは、職員の指導を受け実施する。（添付2）

② やけどに十分注意する。



※危険な場所：かまどの裏には立ち入らないこと。不用意にかまどに触らないこと。

※火ばさみやピザピールなど熱で熱くなるものは、床に放置せず、使っていないかまどに置くなど置き場所を決めて管理すること。

- ③班活動の導線を意識して安全に活動する。
※班が使う「かまど」「調理台」「洗い場」が一直線になるように配置する。



第2.4.5 炊飯場の導線



第3 炊飯場の導線

(4) 活動後

- ①かまどの片づけ時はやけど防止のために軍手を着用する。
※燃え残りの薪や灰は一輪車で灰捨て場に運び、灰捨て場内で消火する。



灰捨て場



灰捨て場での消火

- ②調理中のごみ、残飯などのごみは「食材が入っていた袋」に班ごとにまとめ、所定のごみ捨て場にもっていき捨てる。



野外炊飯専用ゴミ捨て場



ゴミ捨て場内部

- ③炊飯に使った道具や食器を片付ける。
※汚れがきれいに除去されていることを確認し、水分を拭きとり、所定のコンテナに正しい状態に収納する。
(コンテナファイル内「後片付けのポイント」「コンテナセット一覧」参照)
- ④全体の9割程度の班の片づけが終わったら、無線で職員に連絡し、コンテナの内容や炊飯場全体の点検を受ける。
(コンテナファイル内「野外炊飯における点検時のチェックポイント」参照)

11. 留意点

- (1) 活動時の服装と装備品
 - ①レインコート、雨合羽など燃えやすいものは着用しない。
 - ②手袋は滑り止めがついていない軍手を使用する。
ゴム製手袋は熱で溶けやけどの原因となるので使わない。
滑り止め付きの軍手は火を扱う時点で、手の甲に滑り止めがくるようにつけなおす。（木綿製の軍手が望ましい）
- (2) かまどや道具によるやけど防止
 - ①火のついたかまどのふちには不用意に触れないこと。
 - ②火のついたかまどの裏にはいかないこと。
 - ③加熱した道具（火ばさみ、ピザピールなど）は、置き場を決めておくこと。
 - ④加熱された道具を手を持ったまま歩き回らないこと。
 - ⑤かまどの片付けの際にも軍手を必ず着用すること。
- (3) 刃物による怪我の防止
 - ①刃物の使用は指導の要領をよく理解し行うこと。
 - ②使用後は所定の場所に収納または返却し、放置しないこと。
 - ③炊飯実施前及び点検前には包丁の本数を必ず確認すること。
 - ④薪割りの指導は施設職員が行う。
ナタは各班に1本貸与する。
- (4) 衛生面の管理
 - ①使用前の道具や食器は食器用洗剤で洗浄する。
※食品添加物系のアルコールで除菌する方法もある。
 - ②食材によく火を通すため、調理の手順や方法を確認する。
 - ③調理の前、食事の前には石鹸などでよく手指を洗浄する。
- (5) 野外炊飯メニューの食物アレルギーの対応
 - ①利用団体代表者は野外炊飯メニューの成分表をよく確認し、該当者の有無を確認する。
 - ②アレルギー対応が必要な場合、利用団体で対応策を講じレストラン及びプログラム担当者、野外炊飯担当者にその方法を伝達し相互理解を進めておく。
 - ③当日の打ち合わせの中で対応方法を確認し実施に向かう。
- (6) 道具や食器の洗浄に使うものの確認
 - ①煤で汚れたものはクレンザーとスコッチクロスを使用する。
 - ②食器やスプーン、包丁などは食器用洗剤とスポンジを使う。
 - ③洗剤を落とした後は布巾で水滴を拭きとって収納する。
 - ④洗い場はたわしで清掃し、排水口のごみも除去する。

野外炊飯実施計画書

1、利用団体【団体名： _____ / 野外炊飯担当者 _____】

2、タイムテーブル【実施日： _____ 月 _____ 日】

	食材受け取り（売店）	集合・説明開始	点検開始	活動終了
予定時刻	：	：	：	

3、担当者の配置 ※引率者が少ない場合は、②③の重複は可能です。

(1)「準備～活動～片付け」における役割分担【内は引率者の担当者】

①『薪割り・かまど担当』（1班に1～2名 引率者は1炊飯場につき1～2名）

【 _____ 】【 _____ 】

・薪の受け取り ・薪割りの安全管理 ・火起こしと火の安全管理 ・かまどの清掃指導

②『食材担当』（1班に1～2名 引率者は全体で1～2名）

【 _____ 】【 _____ 】

・売店での食材受け取り ・食材運搬 ・食器・用具担当の補助

③『食器・用具担当』（1班に1～2名 引率者は1炊飯場につき1～2名）

【 _____ 】【 _____ 】

(2)「活動中」における各炊飯場の安全管理分担(団体引率者の担当配置)

	第2炊飯場	第3炊飯場	第4炊飯場	第5炊飯場	第1キャンプ場
班構成	人× 班 人× 班	人× 班 人× 班	人× 班 人× 班	人× 班 人× 班	人× 班 人× 班
担当者					

4、食材・薪の確認 【調理メニュー： _____】

(1) 売店への発注【 ☐注文あり ☐持ち込み】 ※☐に✓を付してください⇒「注文あり」の場合 ☐6人分×()セット ☐3人分×()セット☐薪()束 ☐炭()箱(2) 食物アレルギー対応 【☐対応が必要 ☐対応は不要】 ※☐に✓を付して下さい

①対応の内容 (例：「対応用に鍋が1つ必要」「持ち込みのルーで作る」など)

5、その他（要配慮事項など）

※※禁止事項※※

- ①持ち込み食材と注文食材の混合調理
- ②調理物、残食材の持ち出し
- ③飲酒

「自然の家」事務処理欄

受理日	月 日
野外炊飯担当職員	
薪の使用料（確定）	束

薪割りに必要な道具・装備と手順

1、装備

(1) 手袋 滑り止めがついていない軍手を使う。

①利き手の軍手を外し、利き手でないほうに2重にかぶせる。



※軍手をした手で薪を支え、素手でナタを持ち薪を割る。薪割り作業が終わったら軍手を両手にはめなおす。

2、道具



※配られた薪束の中から細めの薪を4本程度取り出し、その薪を割る。

※ナタは1班につき1本貸し出す。使用後は指導の職員へ返却する。

3、薪割りの手順 (割りばしの太さになるまで割り、15本程度つくる。)



※軍手をした手で薪を支える。
※薪の先端にナタの刃を30～45度の角度で当てる。



※刃を当てたまま薪を持ちあげて台に軽く打ち付ける。薪が台にあたったら支えている手を離す。



※ひびが薪の真ん中くらいに入ったら支える手を薪の上部に持ち替えて台にたたきつけるようにして割る。

○バーベキュー

活動の概要		包丁の使い方、野菜の切り方、ナタの使い方、などといった生活技術を身につけるとともに、仲間と協力して食事を作ることの大切さに気づく活動である。
めあての例		・包丁やナタなどの道具を使えるようになる。 ・責任を持って自分の役割をはたそう。
時期		通年（１２月～２月は水道の凍結のため、不可能な場合あり）
所要時間		４時間３０分～５時間程度
人数		３６０名程度（道具持ち込みの場合） ※当施設のバーベキューセットを借用しての使用は、９６名程度まで
手順		< 事前準備 > ・野外炊飯場の下見を行う。 ・６名のグループを作成。各グループに食材係２名、薪（木炭）受け取り係２名、食器確認係２名など役割を決める。 < 活動前 > ・入所時に、事務室で説明担当者と事前の打ち合わせをする。 ・説明場所に移動し、職員からの説明を受ける。 < 活動中 > ・ケガ・やけどに注意して活動する。 < 活動後 > ・かまど・コンロは火が完全に消えた状態で片付ける（革手袋を使用）。 ・灰は指定された灰捨て場に一輪車で運ぶ。 ・ゴミは、食材の入ったビニールに班ごとにまとめて指定の場所に持って行く。 ・９割程度のグループの片付けが終了したら、無線で職員に連絡し、点検を受ける。
引率者の配置・人数		各炊飯場に責任者１名、薪係１名、食材係１名、食器確認係１名、かまど係１名（各炊飯場に５名程度）
留意点		・衛生管理をきちんと行い、食中毒等の予防に努める。 ・燃えたり溶けたりしやすい衣服（化学繊維等）はできるだけ避ける。 ・かまどの裏へは行かない。 ・ラバーのついた軍手は熱で溶けるため、火傷を負う危険性があり、左右逆にするなどの対策をとる。 ・ナタを使用するときは職員の指導に基づき行う。なお、団体の引率者も一緒に子どもたちを指導する。また、ナタの使用は１班に１名とする。 ・カレールーやご飯用鍋のすすを落とす際は、食器用洗剤ではなく、クレンザーを使用する。 ・鍋にクレンザーの塗布（クレンザーコーティング）はしない。 ・金たわしの使用は不可とする。 ※網への使用は可能 ・かまどに直接水をかけない。 ・食中毒等の予防のためのアルコール消毒（食品添加物系）を持参する。 ・バーベキューコンロは、炊飯場建物内のみで使用可能とする。 ・飲酒はできない。
準備物	施設借用可	バーベキューセット（コンロ・網・トング等） ※８セットまで ※食器セットや箸の貸し出しはない。必要に応じて各団体での持ち込み。
	団体準備	食事用の割りばし、割りばし（ナタを使用しない場合）、着火道具（着火剤・ガスバーナー等）、ふきん、マッチ、新聞紙（牛乳パック）、うちわ、（必要に応じて）皮むき器、ハンドソープ、食器洗い用洗剤、クレンザー、救急セット、軍手、（必要に応じて）食器等消毒用アルコール
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・係の役割に責任を持って取り組むことができたか。 ・安全に留意して活動することができたか。

○ピザづくり

活動の概要		野外炊飯場のかまどで鉄板を使ってピザを焼く活動である。トッピングは２種類（イタリアン、ツナ）ある。
めあての例		・自分たちの食事を自分たちで作って食べることを楽しもう。
時期		通年（１２月～２月は水道の凍結のため、不可能な場合あり）
所要時間		３時間～５時間程度
人数		１グループ６名 最大１５０名
手順		<事前準備> ・野外炊飯場の下見を行う。 ・６名のグループを作成。各グループに食材係２名、薪（木炭）受け取り係２名、食器確認係２名など役割を決める。 <活動前> ・活動前に、事務室で説明担当者と事前の打ち合わせをする。 ・説明場所に移動し、職員からの説明を受ける。 <活動中> ・ケガ・やけどに注意して活動する。 <活動後> ・かまどは、火が完全に消えた状態で片付けを行い（革手袋を使用）、灰は指定された灰捨て場に一輪車で運ぶ。 ・ゴミは、食材の入ったビニールに班ごとにまとめて指定の場所に持って行く。 ・９割程度のグループの片付けが終了したら、無線で職員に連絡し、点検を受ける。
引率者の配置・人数		各炊飯場には１名責任者。薪係１名、食材係１名、食器確認係１名、かまど鉄板係２名。（各炊飯場に５名程度）
留意点		・衛生管理をきちんと行い、食中毒等の予防に努める。 ・化学繊維等、燃えたり溶けたりしやすい衣服はできるだけ避ける。 ・ラバーのついた軍手は熱により溶け、火傷を負う危険性があるので、左右逆にするなどの対策をとる。 ・ナタを使用するときは職員の指導に基づき行い、団体の引率者も一緒に子どもたちを指導する。また、ナタの使用は１班に１名とする。 ・食中毒等の予防のためのアルコール消毒（食品添加物系）を持参する。 ・飲酒はできない。
準備物	施設借用可	ピザ用道具セット（ピザピール、あみ、プレート、ピザカッター、革手袋、温度計）、食器セット、無線機
	団体準備	割りばし（ナタを使用しない場合）、ふきん、マッチ、新聞紙、うちわ、アルミホイル、ハンドソープ、食器洗い用洗剤、クレンザー、ふきん、軍手、（必要に応じて）食器等消毒用アルコール
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・係の役割に責任を持って取り組むことができたか。 ・安全に留意して活動することができたか。

○もちつき【現在停止中】

活動の概要		もち米を蒸し、蒸しあがった米をつき、おもちをちぎり、あんこもちやお雑煮をすることで、日本の文化に触れる。
めあての例		・もちつきを通して、日本に伝わる文化を体験しよう。
時期		通年
所要時間		3時間～5時間程度
人数		100名程度
手順		<活動前> ・職員との打合せを行う。 ・借用物を倉庫から取り出す。 ・臼や杵等を洗う。 ・臼にお湯をはる（餅米が臼につかないように）。 ・杵を水につける（餅米が杵につかないように）。 ・必要があれば、職員が説明を行う。 <活動中> ・餅は早めにつきあげる。 ・ついた餅は、早めに餅を切る（衛生上）。 <活動後> ・活動した場所周辺の清掃を行う。 ・借用物品を洗い、天日干しをする。 ・借用物品を倉庫に収納する。
引率者の配置・人数		餅をつく係、餅をきる係を配置、臼や杵等の準備に数人
留意点		・きねの先をしっかりと（30分程度）水に浸し、くさびを膨張させておく ※きねの先が抜ける可能性がある。 ・手で食べるものをさわることが多いため、手洗いや消毒をきちんとして食中毒予防に努める。
準備物	施設借用可	臼、杵、ブルーシート、食器、スポンジ、たわし、テーブル
	団体準備	割りばし、ふきん、台ふき、（餅を持ち帰る場合）袋等
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・文化としてのもちつきに触れて感じたことはどんなことか。 ・準備や片付けを協力してすることができたか。

『クラフト（創作）活動』

○すべすべ板	．．．．．	P 4 4
○焼き板	．．．．．	P 4 8
○すべすべコースター	．．．．．	P 5 2
○プラホビー	．．．．．	P 5 5
○竹とんぼ作り	．．．．．	P 5 6
○杉皿アート	．．．．．	P 5 7

「クラフト（創作）活動」

すべすべ板

1. 活動の概要

磨いた杉板に自由に絵や文字を描き、金具やひもをつけて壁掛けや置物を作る。
きれいな木目が出るように磨いたり、自然の素材を貼り付けたりしながら、オリジナルの作品を完成させる。

2. めあての例

- ・木目を活かしたり、ペイントしたりして思い出の作品を作ろう。
- ・オリジナル作品を作ろう。

3. 時期

通年

4. 所要時間

1 時間～2 時間程度

5. 最大人数

制限なし

6. 引率者の配置・人数

1 名以上

7. 準備物

- ・施設貸出物品
くぎ、ラジオペンチ
- ・団体準備・個人準備
布、雑巾、軍手、新聞紙、下書きなどのデザイン画像
- ・購入物品
杉板セット、カラーペイント（購入は任意、ポスカでも代用可）

8. 振り返りのポイント

- ・自分の思い通りの作品を作れたか。

9. SDGsとの関連



10. 活動の手順

(1) 活動前

- ① レストラン売店にて購入した材料、事務室にて活動プログラム資料・無線機を受け取る。



- ② 指定の活動場所へ必要な道具を持ち、移動する。

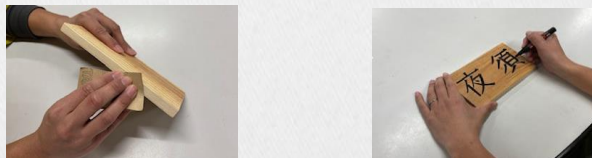


- ③ 活動場所に置かれた道具を確認する。不足があれば、自然の家職員へ確認を行う。



- ④ 活動前に、下記の点について指導を行う。

- (1) 杉板を紙ヤスリで磨く。 (2) 好きな絵や文字を描く。



- (4) ペイントが乾くまで待つ（3時間以上）。



- (5) 金具、ヒモを取り付ける。



くぎで少し穴を開ける

ラジオペンチで
金具をねじ込む

完成

(2) 活動中

- ① 引率者の指示のもと活動を行う。
 - ※ 活動中は、必ず軍手を着用する。
 - ※ くぎ等の使用に注意する。
 - ※ ペイント活動時は、新聞紙等を板の下に敷きながら実施する。

(3) 活動後

- ① 人数や体調（ケガ）の確認をする。
- ② 使用した道具の数を確認し、所定の置き場へまとめる。



- ③ 活動場所の掃き掃除を行う。
- ④ 活動終了後は、その旨を無線で自然の家職員に伝える。
- ⑤ 活動場所に忘れ物等がないかチェックし、本館に移動する。
- ⑥ 自然の家事務室にて、活動プログラム資料・無線機を返却する。

11. 留意点

- ・ 道具の数に限りがあるため、事前の人数集約が必要である（要確認）。
- ・ くぎやラジオペンチの道具の扱いには十分注意する。
- ・ カラーペイントは各色（赤、青、黄、緑、白、ピンク）、1本で2～3人分である。
- ・ カラーペイントは乾くのに半日程度かかるため、退所日で実施する場合は、乾かない可能性がある。

すべすべ板 道具の使い方・注意点



ラジオペンチの使い方

- ① 利き手の反対の手でしっかり板を固定する。
- ② 写真のようにラジオペンチで金具を回し、木にねじこんでいく。

注意点

注意

道具の置き場所を決め、道具の管理を徹底してください。

「クラフト（創作）活動」

焼き板

1. 活動の概要

焼いて磨いた杉板に自由に絵や文字を描き、金具やひもをつけて壁掛けや置物を作る。きれいな木目が出るように磨いたり、自然の素材を貼り付けたりしながら、オリジナルの作品を完成させる。

2. めあての例

- ・木目を活かしたり、ペイントしたりして思い出の作品を作ろう。
- ・オリジナル作品を作ろう。

3. 時期

通年

4. 所要時間

1 時間～2 時間程度

5. 最大人数

制限なし

6. 引率者の配置・人数

1 名以上

7. 準備物

- ・施設貸出物品
ワイヤーブラシ、くぎ、ラジオペンチ
- ・団体準備・個人準備
布、雑巾、軍手、新聞紙、下書きなどのデザイン画像
- ・購入物品
焼き板セット、カラーペイント

8. 振り返りのポイント

- ・自分の思い通りの作品を作れたか。

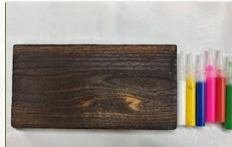
9. SDGs との関連



10. 活動の手順

(1) 活動前

- ① レストラン売店にて購入した材料、事務室にて活動プログラム資料・無線機を受け取る。



- ② 指定の活動場所へ必要な道具を持ち、移動する。



フリースペース



野外炊飯場

- ③ 活動場所に置かれた道具を確認する。不足があれば、自然の家職員へ確認を行う。



ワイヤーブラシ



くぎ



ラジオペンチ

- ④ 活動前に、下記の点について指導を行う。

- (1) 焼き板をワイヤーブラシで大まかに磨く。



- (2) 新聞紙や雑巾、紙ヤスリで木目がきれいになるまで磨き、仕上げる。



- (3) 好きな絵や文字を描く。



- (4) ペイントが乾くまで待つ（3時間以上）。



- (5) 金具、ヒモを取り付ける。



くぎで少し穴を開ける



ラジオペンチで金具をねじ込む



完成

(2) 活動中

- ① 引率者の指示のもと活動を行う。
 - ※ 活動中は、必ず軍手を着用する。
 - ※ ワイヤブラシ、くぎ等の使用に注意する。
 - ※ 活動中は、さすが風で舞うため、服装などは、汚れてもいいものを着用する。
 - ※ ペイント活動時は、新聞紙等を板の下に敷きながら実施する。

(3) 活動後

- ① 人数や体調（ケガ）の確認をする。
- ② 使用した道具の数を確認し、所定の置き場へまとめる。



- ③ 活動場所の掃き掃除を行う。
- ④ 活動終了後は、その旨を無線で自然の家職員に伝える。
- ⑤ 活動場所に忘れ物等がないかチェックし、本館に移動する。
- ⑥ 自然の家事務室にて、活動プログラム資料・無線機を返却する。

11. 留意点

- ・ 道具の数に限りがあるため、事前の人数集約が必要である（要確認）。
- ・ ワイヤブラシやくぎ、ラジオペンチの道具の扱いには十分注意する。
- ・ カラーペイントは各色（赤、青、黄、緑、白、ピンク）、1本で2～3人分である。
- ・ カラーペイントは乾くのに半日程度かかるため、退所日で実施する場合は、乾かない可能性がある。

焼き板 道具の使い方・注意点



ワイヤーブラシの使い方

- ① 利き手の反対の手でしっかり板を固定する。
- ② 黒くすすが残っている箇所を中心にワイヤーブラシでこする。
- ③ 黒いすすが落ちなくなるまでこする。



ラジオペンチの使い方

- ① 利き手の反対の手でしっかり板を固定する。
- ② 写真のようにラジオペンチで金具を回し、木にねじこんでいく。

注意点

注意

道具の置き場所を決め、道具の管理を徹底してください。

「クラフト（創作）活動」

すべすべコースター

1. 活動の概要

丸太を2～3センチ程度の幅にのこぎりで切り、紙やすりで磨いて杉材の温かみのあるコースターを作る。

2. めあての例

- ・木目を生かしたコースターを作ろう。
- ・自然の素材を生かしたコースターを作ろう。

3. 時期

通年

4. 所要時間

2時間程度

5. 最大人数

制限なし

6. 引率者の配置・人数

1名以上（のこぎりを使用する際に、注意する）

7. 準備物

- ・施設貸出物品
のこぎり、丸太置き台
- ・団体準備
救急セット、紙やすり
- ・個人準備
軍手

8. 振り返りのポイント

- ・のこぎりの使用にあたり、ルールを守り、友だちと協力できたか。
- ・自分の思い通りの作品を作れたか。

9. SDGsとの関連



10. 活動の手順

(1) 活動前

- ① 売店にて注文数の確認をする。

(2) 活動中

- ① 活動場所ですぐ自然の家職員から丸太と丸太置き台、のこぎり、無線機、資料を受け取り、説明を聞く。
- ② 1本の丸太で2班分(12人分)となるので、まず始めに丸太を半分にする。丸太置き台に丸太を乗せ、以下の図のように切る。

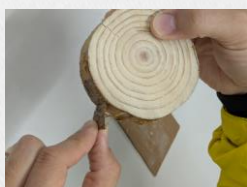


※刃が曲がっていたり、体が斜めになると切りにくい。
※班で協力して、別の人が丸太を抑えるなど工夫して作業を進める。
※丸太の幅は2～3センチ程度。

- ③ 切った丸太をやすりで削る。



- ④ 皮を剥ぎ、やすりで磨く。



- ⑤ 角をやすりで磨き、全体がすべすべになったら完成。



(3) 活動後

- ① のこぎり、丸太置き台を元の位置に戻す。
- ② 無線機で活動終了の旨を事務室に連絡する。
- ③ 本館に移動し、事務室に無線を返却する。

11. 留意点

- ・ 道具に限りがあるため、日程表提出時には人数を把握し、日程調整担当者と活動場所を調整する。
- ・ やすりで木を磨くため、木くずが出て汚れる可能性があるため、汚れてもいい服装で活動を行う。
- ・ 木くず（粉）が目に入るため、木くずを吹かない。
- ・ のこぎりを使用するため、使用時は使い方に十分注意する。

○プラホビー

活動の概要		プラ板に絵や文字を書き、オーブントースターで焼いてキーホルダーをつけると世界で一つのキーホルダーが完成する。
めあての例		・手作りでキーホルダーを作ってみよう。 ・デザインを工夫して、自分だけのキーホルダーを作ろう。
時期		通年
所要時間		2時間程度
人数		制限なし
手順		< 事前 > ・事前にデザインを決めておく。 < 活動前 > ・売店でプラ板、キーホルダーを購入する。 ・自然の家事務室で活動場所の確認及び道具を受け取る。 < 活動手順 > ① プラ板（B4サイズ、6～8人分）を必要な大きさに切る。 ② プラ板に、各自のアイデアで油性ペンやポスターカラーを使って絵や文字を書く。 ③ 穴あけパンチで穴をあける。 ④ オーブントースターのプレートにアルミホイル又はクッキングシートを敷く。 ⑤ オーブントースターで焼く。 ⑥ 板が縮小して形が整ったら、竹ピンセットで取り出す。 ⑦ 新聞紙などの上で、コテでしっかり押さえる。 ⑧ キーホルダーをつける。 < 活動後 > ・自然の家事務室に道具を返却する。 ・研修室の清掃をする。
引率者の配置・人数		1名以上
留意点		・道具の数に限りがあるため、事前の人数集約が必要である（要相談）。 ・オーブントースターは各研修室で2台まで使用可能。その際、別々のコンセントから電源をとる。 ・オーブントースターは熱くなるため、使用場所や使用方法には十分注意を払う。 ・焼いてからでは割れてしまうので、必ず焼く前に穴をあける。 ・安全を考えて、焼く前に角は落とした方が良い。 ・トースターは、1室に2台まで使用可能とする。 ・自然の家職員の直接指導なし。
準備物	施設借用可	オーブントースター、穴あけパンチ、はさみ、カッターナイフ、カッター、マット、ものさし、竹ピンセット、コテ、下絵、ラジオペンチ
	団体準備	新聞紙、油性ペン、アルミホイルまたはクッキングシート、ポスターカラー
	個人準備	カラー
発展・工夫		日付や思い出に残った場面等を文字や絵で記入すると思い出として残る。また、透明な板なのでキャラクター等を写してもよい。

○竹とんぼ作り

活動の概要		竹とんぼを作っていく工程を通して、ナイフの使い方や竹の削り方など、基本的な道具の使い方を覚えていくこともできる。また、作った竹とんぼを使って飛行距離や高さを競うことができる。
めあての例		・ 刃物を使って竹を削って、竹とんぼを作って競争しよう。 ・ 刃物など道具の安全な使い方を覚えよう。
時期		通年
所要時間		3時間程度
人数		制限なし
手順		< 活動前 > ・ 売店で竹とんぼキットを購入する。 ・ 自然の家事務室で活動場所の確認及び道具を受け取る。 < 活動中 > ・ 切り出しナイフ・キリを安全に使用する。 < 活動後 > ・ 自然の家事務室に道具を返却する。 ・ 研修室の清掃をする。
引率者の配置・人数		引率者全員で一人一人に対し、刃物の使い方に関する適切な指導ができることが望ましい。
留意点		・ 道具の数に限りがあるため、事前の人数集約が必要である（要確認）。 ・ 切り出しナイフ等の道具の扱いには十分注意する。 ・ 活動は、片付けがしやすいようにブルーシートの上で行うと良い。 ・ 天気が良ければ、屋外での活動も可能である（野外炊飯場やキャンプファイヤー場など）。 ・ <u>自然の家職員の直接指導なし。</u>
準備物	施設借用可	切り出しナイフ、キリ ※切り出しナイフは左利き用もあるが、数に限りがある（要相談）。
	団体準備	サンドペーパー、ポスターカラーなど色を付けるもの、軍手
	個人準備	
発展・工夫		・ 工夫したところや飛ばし方のコツなどを発表しあう。 ・ 様々な形の竹とんぼの作り方があるので、試してみる。

○杉皿アート

活動の概要		杉皿は、杉板を薄く削った『経木（きょうぎ）』を皿状に貼り合わせたもの。 直径約 20 c m の皿で、杉の香りや手触りがとてもよい。 絵を描いたり、文字を書いたり、枝や葉を貼り付けて好きなように飾る。
めあての例		・ 文章や絵で、思い出をつづろう。 ・ 自然物を使って、好きなように飾ろう。
時期		通年
所要時間		30分～1時間程度
人数		制限なし
手順		<活動前> ・ 売店で杉皿を購入する。 ・ 自然の家事務室で活動場所の確認をする。 ・ 必要な場合は自然の家事務室で道具を受け取る。 ・ 自然物を拾ってくる。 <活動中> ・ 文字書きや絵付けなどを行う。 ・ 自然物を貼り付ける。 <活動後> ・ 研修室の清掃をする。
引率者の配置・人数		刃物を使う場合、刃物の使い方を注意して確認する。
留意点		・ 机の上を汚さないように注意する。 ・ ナイフやハサミ等の道具で自然物を加工する場合は、扱いには十分注意する。 ・ 自然物を拾う場合は、落ちているものに限る。 ・ <u>自然の家職員の直接指導なし。</u>
準備物	施設借用可	切り出しナイフ、ハサミ
	団体準備	油性マジック、ポスターカラーなど色を付けるもの、木工用ボンドなど
	個人準備	
発展・工夫		・ 文章や絵など書いたものを並べて、鑑賞会をしよう。 ・ 様々な自然物を貼り付けて、鑑賞会をしよう。

『学習活動等』

○自然観察	．．．．．	P 5 9
○天体観察・星空観察	．．．．．	P 6 0
○DVD鑑賞	．．．．．	P 6 1
○博物館・史跡めぐり	．．．．．	P 6 2
○人工芝スキー（サンビレッジ茜）	．．．．．	P 6 3

○自然観察

活動の概要		自然の家周辺で野山やフィールドを歩きながら、植物・野鳥・昆虫などを観察し、自然への興味を深め、あわせて自然保護の心を養う。
めあての例		・夜須高原青少年自然の家周辺の自然を調べてみよう。 ・自然を知ること、自然をより身近に感じよう。
時期		通年
所要時間		2時間～3時間程度
人数		制限なし
手順		<事前準備> ・活動場所の下見を行う。 <活動前> ・自然の家事務室で無線機と必要な道具を受け取る。 ・記録に必要なメモ用紙や筆記用具があるとよい。 <活動中> ・植物・野鳥・昆虫を観察しながら名前や特徴などを図鑑等で確認したり、野鳥や昆虫の行動を記録したり、イラストを描いてみる。 ・どんな場所にどんなものがあったのか、マップにしても面白い。 <活動後> ・グループ内で観察結果をまとめ、発表等ができればよい。 ・借用物品を自然の家事務室へ返却する。
引率者の配置・人数		・引率者数名程度（全体の人数確認や安全確保ができる人数）
留意点		・植物は、むやみに折ったり抜いたりせずに自然のままで観察する。 ・観察した植物や昆虫は自然にかえす。 ・フィールドビンゴやウォークラリーの中で自然観察の時間を設ける方法も考えられる。 ・活動中の水分補給や、危険な動植物には十分注意する。 ・雷が鳴ったら、活動を中止し、自然の家に戻ってくる。
準備物	施設借用可	無線機、周辺地図、双眼鏡、植物図鑑、サンダーメーター 等
	団体準備	筆記用具、長そで、長ズボン、帽子、はき慣れた靴、水筒、タオル、植物図鑑など、虫かご、虫取り網、懐中電灯 等
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・観察して学んだこと、感じたことを発表し合い共有する。 ・自分たちが住む地域の自然環境との違いを調べ、学校等での授業の一環として活用することもできる。

○天体観察【現在停止中】・星空観察

活動の概要		スタードームにある200ミリの大型望遠鏡で、月・木星・土星などを観察する。 また屋上では、星空や夜景を眺めるなど、夜の自然を感じることができる。
めあての例		・星や星座について学ぼう。 ・星空をゆっくり眺めながら、夜の自然を感じよう。
時期		通年
所要時間		1時間～2時間程度
人数		150名程度
手順		<事前準備> ・その日に見える天体や星座について事前に学習する。 <活動中> ・自然の家の職員が天体望遠鏡をセットして待機しているので、時間になったら事務室に声を掛けて、スタードームに移動する。 ・活動中に雨・雲・霧等で見えない場合もある。 ・天候や機器の不具合で見えない場合がある。 <活動後> ・下りの階段が非常に見えにくいいため十分に注意し、次の活動や宿泊室に向かう。 ・戸締まり等は、職員が行う。
引率者の配置・人数		・天体望遠鏡のセット設定の操作は自然の家職員が行う。 ・スタードームまでの誘導や観測待ち時間があるために、引率者数名が指導できる体制にあることが望ましい。
留意点		・天体望遠鏡は一人ずつしか利用できないので見終わったら次の人と交代する。 ・ピントを固定させた後は望遠鏡には触らない。 ・夜間の活動となるため、防寒対策をきちんと行う（観測室の扉・スリットは開けっ放しになるため、外とほとんど気温が変わらない）。 ・観測室に入れるのは、多くて5名程度であり、グループ毎や交代で見るための方法をあらかじめ考えておくスムーズである。 ・人数の多い団体は肉眼観測等と組み合わせて活動すると効率的に観測できる。
準備物	施設借用可	天体望遠鏡（200mm屈折望遠鏡）、ミニ望遠鏡、星座早見盤
	団体準備	懐中電灯、筆記用具（書いたり、記録したりすることが必要であれば）
	個人準備	
ふりかえりのポイント		・星を見て思ったことを共有する。 ・どんな言葉で表現できるかを考えたり、他の人の話を聞く。 ・星を見ながら静かにして、聞こえてきた音や感じたことを共有する。

○DVD鑑賞

活動の概要		—
めあての例		—
時期		通年
所要時間		内容によって異なる。
人数		・ラーニングルームの収容人数によって異なる。 ※ラーニングルームについては利用の手引きを参照する。
手順		<事前準備> ・借用物品を利用申込書や電話で確認する。 <活動前> ・自然の家事務室で借用物品を受け取る。 ・機材のセッティング等を行う。 ※不明な場合は自然の家職員に相談する。 <活動後> ・借用物品を自然の家事務室へ返却する。
引率者の配置・人数		1名以上
留意点		・自然の家事務室のDVDソフトは、互換性によって再生不可や種類に限りがあるため、団体で準備することが望ましい。 ・借用物品の返却の際に、付属品などの確認をする。
準備物	施設借用可	プロジェクター（DVD再生機能内蔵）
	団体準備	DVD
	個人準備	
ふりかえりのポイント		—

○博物館・史跡等めぐり

活動の概要	自然の家から30km以内の範囲に、歴史探訪や文化施設が複数あり、施設見学を自然の家での活動と組み合わせることも可能である。
施設一覧	1. 秋月路探訪（車で30分） 朝倉市 秋月城跡、城下町探索など、歴史情緒あふれる里山を体験できる。 2. 太宰府天満宮（車で40分）太宰府市 学問の神様、菅原道真公を奉っている。 3. 九州国立博物館（車で40分）太宰府市 日本で4つ目の国立博物館。日本文化の形成をアジア史的観点から捉えるという視点をもった施設。アジア諸地域との文化交流の歴史を全国的な視野から深めることができる。独創的な建物も一見の価値ある場所。 4. 九州歴史資料館（車で30分）小郡市 古くから中国や朝鮮半島など海外との交流の窓口であった九州の歴史を明らかにするために太宰府史跡の発掘や考古資料、美術工芸品等の歴史資料の調査研究、展示を行っている。 5. 福岡県青少年科学館（車で1時間）久留米市 テーマ「地球」のもとに科学の世界へ導く施設。 6. あまぎ水の文化村（車で30分） 朝倉市 遊びながら、水の大切さを知ることができる施設。 7. 夜須高原記念の森（車で5分） さまざまな視点から自然を見つめ、体験できるゾーンから構成されている。自然の中でリラックスして遊びながら、緑の営みを学びとることができる。 8. サンビレッジ茜（車で30分） 飯塚市 人工芝スキーを体験できる施設。その他にも自然体験や団体生活を行う施設が充実している。 9. 大刀洗平和記念館（車で30分） 筑前町 かつて旧陸軍が東洋一を誇った大刀洗飛行場のあった、大刀洗町にある平和記念館である。特攻隊の中継基地として、多くの若き特攻隊員たちの出撃を見送った歴史も含め、福岡での平和学習に適している。

当施設利用に伴う「サンビレッジ茜」（人工芝スキー場）利用料の割引について
（ご案内）

青少年の自然体験活動の促進を趣旨に、当施設「国立夜須高原青少年自然の家」（以下「自然の家」という）と「サンビレッジ茜」（人工芝スキー場）との連携・協力した取り組みとしまして、「自然の家」をご利用いただく小・中学生、高校生等を対象にスキー利用料等について特別減免措置を行っています。

詳細は下記のとおりです。この機会にスキー体験活動を活動プログラムに取り入れていただき、有意義な自然体験をしてみてください。

記

1. 本制度は、小・中学生、高校生等を主とした青少年関係団体についてのみ適用され、それ以外の一般団体には適用されませんのであらかじめご了承ください。
2. 本制度を適用した場合の「サンビレッジ茜」における利用料金については、サンビレッジ茜にお問い合わせください。
スキー利用料には、道具代、（インストラクター）指導料を含みます。
「自然の家」と「サンビレッジ茜」間をマイクロバスで無料送迎しますが、10名以上からのご利用となります。10名未満の場合は自家用車等での移動をお願いします。
3. 「自然の家」入所前、退所後の「サンビレッジ茜」の利用においても、本制度は適用されます。
「自然の家」の利用申込書に「サンビレッジ茜」人工芝スキー体験活動の時間帯をご記入いただき提出ください。
4. 本制度の適用については、「自然の家」に提出いただいた利用申込書等をもとに判断させていただきます。適用の場合は、はじめに「自然の家」から「サンビレッジ茜」へ連絡しまして、その後、利用団体様と「サンビレッジ茜」で氏名・性別・身長・くつのサイズ等の詳細な打合せ、相談等を行っていただきます。

問い合わせ先

サンビレッジ茜

TEL：0948－72－3331

住 所：福岡県飯塚市山口845－38

『各種スポーツ活動』

○各種スポーツ活動

．．．．． P 6 5

○各種スポーツ活動

活動の概要		運動広場、プレイホール、卓球場、多目的コートを利用し、各種スポーツ活動ができる。 ただし、繁忙期（3月下旬～11月）及び土日祝日は、利用希望団体が多いため、確実に活動を希望する場合は、所外の近隣施設の利用がおすすめである。
時期		通年
所要時間		各活動場所の利用を希望する団体数等によって異なる。
人数		種目によって異なるが、おおむね ・運動広場（75m×35m）：200名程度、 ・プレイホール（バスケットボールコート2面）：200名程度 ・卓球場（卓球台2台）：10名程度 ・多目的コート：40名程度
手順		＜事前準備＞ ・事前に下見を行い、コートの広さ、休憩場所を確認する。 ＜活動前＞ ・安全について、確認する。 ・コート整備を行う。 ＜活動後＞ ・用具を片付ける。 ・活動場所の清掃を行う。
引率者の配置・人数		・安全管理ができる者1名以上
留意点		・自然の家の運動施設は、繁忙期、土日祝日は利用希望団体が多いため、希望の時間帯での使用やプレイホールの貸切使用はできない。 ・希望時間で活動を実施したい場合は、近隣の運動施設（筑前町農業者トレーニングセンター、甘木体育センター、朝倉体育センター等）を利用する。 【以下、自然の家の運動施設を利用する場合の留意事項】 ・プレイホールは、バレーボールコート2面、バスケットボールコート2面、バドミントンコート3面を張ることができる（バレーボール及びバスケットボールコート利用時は、2面の間に緑色の区切りネットを張ることができる）。 ・バレーボール及びバドミントンのネットを張るためのクランク、ボールの空気入れは事務室で貸出。 ・バスケットボールのゴールリングの高さは調節可。 ・プレイホールでボールを使用する際は、窓側のネットを張る必要がある。
準備物	施設借用可	○プレイホールでの貸出 ・バレーボール ・バスケットボール ・ドッジボール ○事務室での貸出 ・サッカーボール ・ビブス ・空気入れ ・ネット張り用クランク
	団体準備	救急セット、ウォータージャグ（キーパー）
	個人準備	体育館シューズ、水筒
ふりかえりのポイント		・安全に心がけ、楽しく活動することができたか。



筑前町の中学生が考案した国立夜須高原青少年自然の家のマスコットです。



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立夜須高原青少年自然の家

〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山 1103

T E L : 0946-42-5811 F A X : 0946-42-5880

H P : <http://yasu.niye.go.jp/>